

平成 29 年度 社会福祉法人同愛会 事業概要

I. 法人

(1) 概略

- 法人名 社会福祉法人 同愛会（どうあいかい）
- 所在地 横浜市保土ヶ谷区上菅田町 1749
- 代表理事 高山 和彦
- 設立認可年月日 昭和 53 年 3 月 1 日 第 218 号
- 法人登記年月日 昭和 53 年 3 月 18 日

(2) 法人理念

人生（存在）への支援・援助

(3) 法人の使命

- ①法人は利用する人たちの QOL（人生の質）を高める仕事を創る。
- ②法人は利用者に関わる人たちのニーズに応える仕事を創る。
- ③法人は職員が仕事を通して自己実現を図る組織を創る。
- ④法人は福祉文化の担い手として、地域に貢献し、地域と共に生きる。
- ⑤法人は利用者とともに社会参加を実現する活動・生産を創る。
- ⑥法人は障害当事者運動を支援する。

II. 評議員会

(1) 評議員構成（平成 30 年 3 月 31 日現在 敬称略 アイウエオ順）8 名

荒井俊通・新井靖子・安藤真洋・伊藤浩・伊藤光子・上瀧吉洋・平野章・藤田進

* 退任：伊藤洋介・河原則夫・雲居芳昌・斉藤喜美夫・坂田信子・丹野貞子・鳥塚敏行・
中西晴之・中村真知子・長谷川昭英・深野峰曠・細山誠、山田由美・山本友子・
渡辺守・和田佳一・和田信也

* 新任：荒井俊通・新井靖子・安藤真洋・伊藤浩・伊藤光子・上瀧吉洋・平野章・藤田進

(2) 評議員会開催状況

第 50 回 平成 29 年 6 月 22 日（木） 定時会

平成 28 年度事業報告、平成 28 年度決算・監事監査報告、理事の選任
監事の選任、会計監査人の選任、役員報酬等規程、社会福祉充実残高報告

- 第 51 回 平成 29 年 10 月 26 日 (木) 臨時会
ウィズバル事業所利用者金銭横領事件報告、理事の補欠選任
- 第 52 回 平成 29 年 12 月 22 日 (金) 臨時会 開催省略
定款変更、役員及び評議員の報酬等に関する規程改定
- 第 53 回 平成 30 年 3 月 15 日 (木) 臨時会
平成 29 年度最終補正予算、平成 30 年度事業計画平成 30 年度当初予算、
理事選任、監事選任、ウィズバル事業所横領事件経過報告

III. 理事会

(1) 役員構成 (平成 30 年 3 月 31 日現在 敬称略)

代 表 理 事：高山和彦
常 務 理 事：菊地武廣
業務執行理事：林茂雄・久保田美幸・和田信也
理 事：柴橋和弘・藤田完二
監 事：望月淳一・山崎貴美男

*理事

退任：小田逸雄・富田義憲・鳥塚敏行 就任：林茂雄・和田信也

*監事

退任：山崎貴美男 (3/31 予定) 就任：三代川次郎 (4/1 予定)

(2) 理事会開催状況

- 第 202 回 平成 29 年 4 月 26 日 (水)
(仮称) 東雪谷ハイム入札結果・契約締結、横浜事業本部懲戒処分
- 第 203 回 平成 29 年 5 月 25 日 (木)
平成 28 年度事業報告、平成 28 年度決算及び監事監査報告、理事選任
監事選任、会計監査人選任、日の出福祉園建替え基本計画、役員報酬
定時評議員会、内部管理体制整備、指導監査報告、社会福祉充実残高報告
- 第 204 回 平成 29 年 6 月 22 日 (木)
経理規程改定、平成 29 年度第一次補正予算、日の出建替え経過報告
てらん広場放課後等デイサービス事業廃止
- 第 205 回 平成 29 年 6 月 22 日 (木)
代表理事選任、常務理事・業務執行理事選任
- 第 206 回 平成 29 年 8 月 8 日 (水)
川崎中央療育センター事故調査委員会調査報告、川崎事業本部懲戒処分

第 207 回 平成 29 年 9 月 5 日 (水)

職務執行状況報告、日の出建替え基本計画・民間移譲施設協議書
川崎事業本部給与規程改定、川崎事業本部状況報告

第 208 回 平成 29 年 10 月 4 日 (水)

ウィズバル利用者金銭横領事件報告、横領事件の原因・川崎事業本部組織の在り方
横領事件第三者委員会設置、川崎事業本部組織体制の確立、法人の社会的責任の取り方
理事選任、臨時評議員会

第 209 回 平成 29 年 10 月 31 日 (火) 開催省略

グループホームスプリンクラー等設置工事入札・指名業者選定
RAKUスプリンクラー設置工事入札・指名業者選定
日の出福祉園建替え工事及び既存建物解体工事入札参加条件

第 210 回 平成 29 年 12 月 5 日 (火)

職務執行状況報告、平成 29 年度第二次補正、定款変更、定款施行細則変更
評議員会選任解任委員会規程改定、役員及び評議員報酬改定、
経理規程改定、就業規則改定
日の出福祉園建替え工事及び既存建物解体工事入札参加結果・参加条件変更
つつき地域活動ホームくさぶえスプリンクラー設置工事入札・指名業者選定
グループホームスプリンクラー等設置工事入札結果・契約締結
RAKUスプリンクラー設置工事入札結果・契約締結、臨時評議員会、
都筑区物件購入、ウィズバル事業所利用者預り金横領事件

第 211 回 平成 30 年 1 月 9 日 (火)

ウィズバル事業所横領事件に対する川崎市からの効力停止処分の対応

第 212 回 平成 30 年 3 月 6 日 (火)

経理規程改定、平成 29 年度最終補正予算、平成 30 年度事業計画平成 30 年度当初予算、
理事選任、監事選任、評議員会開催、東京事業本部就業規則等改定、
日の出給食業務調理委託契約日の出建物管理業務委託契約、あすなろ送迎業務委託入札・
指名業者選定、業務執行状況報告、日の出福祉園入札結果指導監査報告、
ウィズバル事業所利用者金銭横領事件第三者委員調査報告
川崎市より指定取消指令書受理報告

IV. 法人事業

(1) 横浜事業本部 新規事業・事業変更及び事業開始準備、施設整備等

○ グループホーム

(新設)

・「ももや」(横浜市旭区) 平成 29 年 10 月 1 日 事業開始

共同生活援助 定員 9 名
所属：てらん広場第二 さんぽ事業所

(移転)

- ・「飛鳥」(横浜市旭区) 平成 29 年 12 月 11 日
「上原荘」を移転し名称変更
共同生活援助 定員 6 名
所属：地域生活支援センター 1 なかまの家 1 事業所
- ・「三之谷」(横浜市中区) 平成 30 年 2 月 1 日
「大里」を移転し名称変更
共同生活援助 定員 6 名
所属：てらんザウルス 1 横浜第二事業部事業所
- ・「満坂」(横浜市中区) 平成 30 年 2 月 1 日
共同生活援助 定員 6 名
所属：てらんザウルス 1 横浜第二事業部事業所

(廃止)

- ・「ハイツなるみ」(横浜市保土ヶ谷区) 平成 29 年 12 月 31 日 廃止
共同生活援助 定員 5 名
所属：地域生活支援センター なかまの家 1 事業所
- ・「Tポート」
放課後等デイサービス
所属：てらん広場 第 1

○ その他

- ・みんなの家 1 階 102 号 購入
土地：横浜市都筑区中川中央一丁目 3 番 7 168.01 m²の内持分 90000 分 7325
建物：鉄筋コンクリート造陸屋根地下 1 階付き 5 階建 1 階部分 45.05 m²
購入金額 26,000,000 円

(2) 東京事業本部 新規事業・事業変更及び事業開始準備、施設整備等

○ グループホーム

(新設)

- ・「かがやきハイム」(板橋区) 平成 29 年 4 月 1 日 事業開始
共同生活援助 定員 6 名
所属：板橋 仲宿ハイム ユニット
- ・「アイムホーム 1」(西多摩郡日の出町) 平成 29 年 4 月 1 日 事業開始

共同生活援助 定員 6 名

所属：西多摩 秋川ハイム ユニット

- ・「アイムホーム 2」(西多摩郡日の出町) 平成 29 年 4 月 1 日 事業開始

共同生活援助 定員 6 名

所属：西多摩 秋川ハイム ユニット

- ・「グループホームかんらんしゃ」(大田区) 平成 29 年 9 月 1 日 事業開始

共同生活援助 定員 6 名

所属：大田

○ 日中活動

(新設)

- ・「生活介護ほ〜ぷ」(あきる野市) 平成 29 年 5 月 1 日 事業開始

生活介護 定員 20 名

所属：西多摩

(閉鎖)

- ・「東大泉第 3 ハイム」(練馬区) 平成 30 年 3 月 31 日 閉鎖

共同生活援助 定員 2 名 (東大泉ハイム サテライト)

所属：練馬

○ その他

(新設準備)

- ・「西多摩まちの暮らし支援センター」 平成 29 年 4 月 1 日 設置

- ・「大田地域生活相談室」 平成 29 年 5 月 1 日 事業開始

(3) 川崎事業本部 新規事業・事業変更及び事業開始準備、施設整備等

○ その他

(新設)

- ・「保育所等訪問支援」(川崎市麻生市) 平成 29 年 11 月 1 日 事業開始

以上

V. 横浜事業本部

1 ダイア磯子

(1) 事業運営状況

[定員]①就労継続支援A型 34名 ②就労移行支援 6名

[延べ利用人数] ①11,036人(前年比355人減) ②1,264人

[平均利用人数] ①35.47人/日 ②4.1人/日

[収入] ①89,736,172円(前年比582,557円増) ②11,242,534円(前年無し)

事業所名 ダイヤ磯子	定員	人数 (3/31)	区 分						開所 日数	延べ 利用人数	平均 利用者数	前年比収入 (千円)	
			無	1	2	3	4	5					6
(就労継続A型)	34	41	15	0	4	17	4	1	0	312	11,036	35.4	△582
(就労移行)	6	5	2		1	1		1		312	1,264	4.1	前年無

新規6名、退所2名

[年齢別]

事業所名 ダイヤ磯子	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
(就労継続A型)	0	12	2	21	6	1	男29 女12
(就労移行)	4		1				男4 女1

(2) 生産活動状況

[収入] 223,680,241円 (前年比3,281,597円増)

[社員給与総支給額] 給与59,534,483円 賞与1,780,000円

[平均給与・工賃] 就労継続A型/給与121,005円/月 賞与21,707円

就労移行支援/工賃56,995円/月

[支出] 218,174,965円

(3) 特記事項

就労支援事業については、得意先企業の再編があったものの、昨年とほぼ変わらない水準での作業受託が出来た。

A型事業については、長期利用者における身体的な変調が顕著になってきており、更なる配慮が必要になってきている。

移行支援事業については、開所1年目であり、支援プログラムなどは試行錯誤が続いたが、見込んでいた事業所における目に見えない活気と現実的な収入の確保の部分については概ね計画通りに推移した。

2 てらんザウルス1

「横浜第二事業部」10ヶ所のグループホーム【30年2月1日に移転：名称変更、大里→三之谷、30年2月1日移転（自然災害擁壁崩れによる）：満坂→旧大里（満坂GHの名称変更はなし）】

「本牧1丁目工房」就労継続B型、「わくわくランド」横浜市地域活動支援センター障害者地域作

業所を運営。法人の基本理念・基本方針をもとに、利用者本位の支援・援助の実現を運営方針としそれぞれの利用者が抱えている生き難さを理解し、生きる喜び・希望・願いを受け止め支援者側の主観・価値観を押し付けることなく、利用者本位の気づきに基づいた生活支援を以下のように進めている。

(1) 事業運営状況

[定員]68名

[延べ利用人数] 22,923人(前年比32人増)

[平均利用人数] 62.8人/日

[収入] 256,896,176円(前年比3,041,741円増) 新規0人 退去2人 異動1人

事業所名	定員	人数	区 分							開所 日数	延べ 利用人数	平均 利用者数	前年比収入 (千円)
			無	1	2	3	4	5	6				
新本牧	7	7	0	0	1	3	3	0	0	365	2699	7.39	3,711.8
本牧原	9	8	0	0	0	4	3	1	0	365	2976	8.15	5,918.1
本牧2丁目	8	8	0	0	1	3	4	0	0	365	2905	7.96	1,021.7
大里(三之谷)	6	6	0	0	2	2	1	0	1	365	2149	5.89	524.7
大里2	8	7	0	0	3	4	0	0	0	365	2841	7.78	43.3
満坂	6	5	0	0	2	1	2	0	0	365	1121	3.07	-8,401.6
本牧南	5	5	0	0	3	1	1	0	0	365	1723	4.72	1,703.1
本郷町	9	9	0	0	1	2	6	0	0	365	3249	8.90	899.2
青木町	6	5	0	0	1	4	0	0	0	365	1825	5.00	955.6
千代崎町	4	4	0	0	0	2	2	0	0	365	1435	3.93	3,334.4

[年齢別]

事業所名	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	合計
新本牧	0	3	3	1	0	0	7
本牧原	1	2	2	3	0	0	8
本牧2丁目	0	1	5	2	0	0	8
大里(三之谷)	0	0	4	2	0	0	6
大里2	0	1	1	2	2	1	7
満坂	0	2	2	0	1	0	5
本牧南	0	2	1	2	0	0	5
本郷町	0	0	0	4	5	0	9
青木町	1	0	0	3	1	0	5
千代崎町	0	1	2	1	0	0	4

(2) 特記事項

職員は、管理者1名、主任2名、サービス管理責任者3名、支援員9名、世話人30名(常勤14

名、非常勤 16 名)：平成 29 年 3 月 31 日現在。

- ・夜勤体制継続。(27 年 4 月より)
- ・大里ホーム移転：三之谷ホームに名称変更。(30 年 2 月 1 日より)
- ・満坂ホーム移転：自然災害による隣接地擁壁崩れにより閉鎖、旧大里ホームに移転(名称変更なし)(30 年 2 月 1 日移転)
- ・サビ管 3 名を中心とした担当グループホームのグループ分けにより、支援の質の向上を図る。
- ・精神保健福祉士、看護師専門職による適切な医療機関との連携及び通院後のフォロー体制の強化を行うことができ、利用者の生活の質の向上に努めている。今後も支援員の質の向上を目指すとともに、利用者への生活の質の向上のため連携強化を図っていく。
- ・精神保健福祉士による、利用者の特性に応じた地域資源を活用することができている。これにより同法人内別事業所との連携も図れ、支援員の知見の広がりによる支援の質の向上にも寄与している。
- ・日中活動先を提供できていない利用者の問題がある。
- ・余暇支援では、グループホームごとに利用者が企画した行事を開催することができた。今後も継続していく。

3 てらんザウルス 2

3-1 本牧一丁目工房

(1) 事業運営状況

[定員] 20 名

[延べ利用人数] 3815 名

[平均利用人数] 15.2 名/日

[収入] 35,583,361 円(前年比 87.6%)

	定員	人数 (3/31)	区分						開所 日数	延べ 利用人数	平均 利用者数	前年比収入 (千円)
			1	2	3	4	5	6				
本牧一丁目工房 (就労継続 B 型)	20	20		2	14	4			251	3815	15.2	△5,056

[年齢別]

	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	合計
本牧一丁目工房 (就労継続 B 型)		9	5	5	1			男性 16 女性 4

(2) 生産活動状況

[売上] 6,463,994 円(前年比 1,543,473 円増)

[利用者工賃総支給額]

[平均工賃] 21,906 円/月(賞与含む)

[収入] 6,463,986 円

[支出] 6,462,964 円

(3) 特記事項

ボランティアとの交流により切り絵スタンドやモビール、刺し子製品等の自主製品を作成しバザーへの出店やショーウィンドウによる販売により近隣の方々にも関心を持たれるようになり販売実績を上げる事が出来た。また、ダイア磯子からの請負作業を行う中で連携を少しずつ取る事が出来るようになり、今後は利用者の就労体験・就労実習を行う形ができるよう体制を整え充実を図りたい。

伸和木材での木材加工作業も安定して作業を行う事が出来た。電動式の機械等多々あるので、利用者への安全教育を何度も行った結果、大きな事故を起こす事なく1年を過ごす事が出来た。

3-2 わくわくランド

(1) 事業運営状況

[定員] 20 名

[延べ利用人数] 15 名 (前年 15 名)

[平均利用人数] 13 名/日 (前年 11 名)

[収入] 20,589,050 円 (前年比 96.9%)

	定員	人数 (3/31)	区分						開所 日数	延べ 利用人数	平均 利用者数	前年比収入 (千円)
			1	2	3	4	5	6				
わくわくランド (地域作業所型)	20	15			6	5	1	1	237	2794	13	2,209

※区分非該当 2 名

[年齢別]

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
わくわくランド (地域作業所型)	1	6	1	6	1			男性 6 女性 9

(2) 生産活動状況

[売上] 2,208,852 円 (前年比 71,177 円増)

[平均工賃] 10,623 円/月 (賞与含む)

[収入] 2,208,852 円

[支出] 2,207,781 円

(3) 特記事項

各利用者が自分の能力を活かし、生き生きと達成感のある毎日の作業を行う事が出来た。専門分野の講師の継続した指導で、織った布やフェルト等の質の向上や作品の表現の幅が広がり、それらをデザイン縫製し、バッグや小物に製品化した。新しい販路の開拓に努め、製品が社会的に評

働され購入される事で、彼らの自信が培われた。

3-3 大空事業所

(1) 事業運営状況

[定員]21名

[延べ利用人数] 6,955人(前年比177人減)

[平均利用人数] 19.1人/日

[収入] 83,023,072円(前年比833,558円増)

	定員	人数 (3/31)	区分							開所 日数	延べ 利用人数	平均 利用者数	前年比収入 (千円)
			無	1	2	3	4	5	6				
大空1,2	10	10	2	—	—	6	—	2	—	365	3,507	9.6	949
洋光台ホーム1,2	11	11	—	—	—	4	5	1	1	365	3,448	9.4	-115

新規0名、退0名

[年齢別]

事業所名	～20代	30代	40代	50代	60代～	合計
大空1,2		1	5	4		10
洋光台ホーム1,2	1	1	5	3	1	11

(2) 特記事項

○平成29年度の統括機能は、組織的にはてらんザウルス2に属し、経理や事務関係はダイア磯子事務に兼務していただくという変則的な運営管理体制であった。日常運営は現場を中心として、毎月の事業所としての運営会議と各GHの非常勤支援者を含む支援員会議を構成し、継続開催してきた。

○全体として、利用者の加齢に伴う支援の質的变化を押さえながら、支援の検討を行ってきた。個別支援課題の特記としては、末期癌ステージIVBのSさんのケアに対して、関係機関連携でのマネジメントの検討と実施、また入院以降の見守りと励ましを行ってきた。

4 くさぶえ

4-1 つづき地域活動ホームくさぶえ

「ここにあることで利用者・ご家族の安心に繋がるくさぶえ」及び「職員一人ひとりにとって自慢できるくさぶえ」の実現を施設運営方針に掲げて取り組んだ。

(1) 相談事業(委託事業)

○相談延べ件数2807件 実人数219人

*個別の相談支援については、新規相談(継続相談や情報提供等含めて)は89件あった。

*相談することに消極的である(不安感、不信感、抵抗感等々)方や、来所自体が難しい方もおり、アウトリーチの支援を心掛けた。又、起きている事象(行動も含めて)の背景を理解し、地域

の中で孤立しないよう、繋がる・繋げる支援を心掛けた。

*「障害が不明の方含めて引きこもり状態にある方」、「発達障害等で通学・通所が困難な方」、「地域の個別支援級や普通級に在籍し、学校での適応困難や不登校状態である方」、「支援（診断等）なく生活してきたが、中軽度知的障害や発達障害等で、進学や就労に困難さを抱えている方」、「家族に他害等あり在宅生活が困難になっている方」、「(上記によって) 障害福祉サービスになかなか繋がらない方やサービスの狭間にある方」、「家族も要支援等で生活基盤が弱い方」等、年齢や障害の種別を問わず様々な相談が多く寄せられた。

*家族の急病や疲弊、家族に対する他害等について相談があった場合、状況に応じて、くさぶえショートステイ・一時ケア事業の緊急的な利用ができるように連携を図った。

*くさぶえ地域交流事業と協力し、相談支援を利用している中軽度知的障害や発達障害等ある方をボランティアとして受け入れることで、社会参加を促す取り組みを行った。その他、おもちゃ文庫事業、余暇活動支援事業等とも協働。

*区域の計画相談支援事業所への訪問を実施。区・生活支援センターの三機関で毎月開催している定例カンファレンスにおいて、事業所訪問の方法や計画相談支援の促進へ活かし方等について検討を重ねた。又、初任者研修の受講勸奨や、計画相談支援事業の指定勸奨も併せて行った。

*都筑区自立支援協議会では、地域課題へのより積極的な取り組みを図るべく、関連機関が主体的に自立支援協議会に参加いただけるよう働きかけるとともに、その具体的な活動に役立つような協議会の運営を目指した。

*昨年度に引き続き、都筑区障害高齢支援課および福祉保健課、都筑区社会福祉協議会、都筑区生活支援センターこころ野、つづき後見的支援センターリリーフ・ネットと協働し、地域とつながる取り組みとして「つづきまるっとプロジェクト」を行った。障害のある方も使える地域情報（インフォーマルサービス）リスト「まるっとページ」を作成し、東山田地域ケアプラザと共催で地域住民向けの啓発講座「障がいて何だろう～みんなが暮らしやすい地域」を開催した。又、都筑区地域福祉保健計画活動発表会「つづきあいフォーラム」にて活動の発表を行った。

*都筑区サポートネットに事務局として参画、又、成年後見制度に関する外部研修への参加等を通して、成年後見制度に対する職員の理解を深める取り組みを行った。

*区内地域ケアプラザ地域包括支援センターの社会福祉士分科会が実施する権利擁護事業について、リリーフ・ネットと共に企画段階から参画。障害者の保護者等を対象に「知って安心！成年後見準備講座～障がいのある子どもの為に今からできること～」を開催した。

*ケアネットつづき（区内ケアマネージャー連絡会）、TASK（都筑区・青葉区市民後見人の会）、放課後等デイサービス事業所、特別支援学校からの研修依頼を受け、基幹相談支援センターや障害福祉サービス等に関する説明を行った。又、横浜市強度行動障害支援力向上研修、横浜市相談支援従事者研修に協力した。

*昨年度に引き続き、自主事業として、保護者を対象とした座談会や勉強会を企画実施した。

(2) 生活支援事業（一時ケア・ショートステイ）

○登録者数 1464 名（前年比 33 名増）

未就学児・軽度発達障害の利用希望者が継続して増えている状況。

○ショートステイ：365 日 延べ 727 泊、一時ケア：延べ 1566 件 6291 時間

利用者の状況把握に努め、ニーズに応じた宿泊を提供した。泊数については、100泊近くの増加となった。

(3) 日中活動（デイサービス）事業

生活介護事業（定員 40 名）および地域生活支援事業の「地域活動支援センターデイ型」（定員 25 名…土曜日）を運営。双方の併用を含めた多岐にわたる活動を提供した。

○生活介護事業

[定員] 40 名

[延べ利用人数] 8,697 人（前年比 64 人減）

[平均利用人数] 36.2 人/日

[収入] 98,214,176 円（前年比 6,601,420 増）

事業所名	定員	人数	区 分							開所 日数	延べ 利用人数	平均 利用者数	前年比収入 (千円)
			無	1	2	3	4	5	6				
くさぶえ (生活介護)	40	59	-	-	-	7	10	15	27	240	8,697	36.2	6,601

[年齢別]

事業所名	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
くさぶえ (生活介護)	-	15	24	6	9	2	1	2	男 36 女 23

○地域活動支援センター事業デイサービス型

年間稼働日数：56 日 延べ利用者数 942 人

障害程度区分等により生活介護を利用できない方への平日の日中活動および、平日生活介護等（他事業所含む）を利用する方への土曜日の余暇的活動支援を提供した。

*土曜デイサービス（アート・ゆったりアート・和太鼓・料理・たべもの・スポーツ・ゆったりスポーツ）は活動プログラム別に日中活動を提供。年単位の利用とし、地域活動ホームのサービスをこれまで利用したことのない方にもくさぶえとの出会いの場となるような活動を提供した。

(4) おもちゃ文庫

毎月、第四木曜日におはなし会を開催し、隔月で関連団体や昔遊びボランティアにも協力を仰ぎつつ、活動の充実を図った。又、相談員より子育て地域情報提供も実施した。年間を通じて関係機関との情報交換やイベントの企画を通じて連携を強化する活動を推進した。

(5) 余暇活動支援事業

障害種別や年齢に応じた様々な活動を企画し、余暇活動の充実を推進した。一時ケア・ショートステイ利用者にも積極的に余暇活動認知度向上を図るような活動を推進した。

(6) 地域交流事業

地域の行事へ積極的に参加し、障害児・者の地域との交流を図った。又、地域機関との連携を図り、余暇活動支援と合同企画イベントも実施した。その他、相談員と連携の中で、障害者ボランティアを積極的に受け入れた。

4-2 都筑区自立生活アシスタント事業

横浜市障害者自立生活アシスタント事業も15年を経過し、登録者は38事業所で900名を超えた。地域と障害特性に応じて事業所の整理が行われる中、平成30年度に障害者総合支援法に創設される自立生活援助事業と、横浜市の自立生活アシスタント事業を具体的に比較検討する年となった。くさぶえの特徴として、メールや電話での支援が約63%と最も多く、次いで同行支援、訪問による支援の順となった。支援内容の特記としては、障害のある方同士の夫婦支援、出産・子育て支援、家族全体の生活力の支援等があげられる。

29年度実績 新規登録者数 4名 登録者総数 23名

4-3 リリーフ・ネット（後見的支援推進事業）

横浜市の「将来にわたるあんしん施策」としてスタートした当該事業も8年目を迎え、登録者も増えつつある。家族会やグループホームの保護者会等の説明会を経て登録されるケースに加え、民生委員やケアプラザのケアマネージャー等、地域からの問い合わせや紹介も増えつつあり、認知度も徐々に上がってきている。今後も、当該制度の認知向上に向け、積極的な広報活動を幅広く展開していく。

29年度実績 新規登録者数 11名 登録者総数 128名（転出等による登録終了者3名）

あんしんキーパー総数176名（マッチングしている人74名）

うち支援者キーパー 98名 地域キーパー 78名

5 ほくぶ

5-1 多機能型 レアリゼつづき（レアリゼつづき・アバンセつづき）

(1) 事業運営状況

[定員] 30名（15名+15名）

[延べ利用人数] 7,581人（前年比 1,626人増）

[平均利用人数] 30.9人/日

[収入] 57,391,528円（前年比 14,014,261円増）

事業所名	定員	人数	区 分							開所 日数	延べ 利用人数	平均 利用者数	前年比収入 (千円)
			無	1	2	3	4	5	6				
レアリゼつづき (就労継続支援B)	15	18	4	0	2	6	3	3	0	242	4,229	17.5	3,953
アバンセつづき (生活介護)	15	14	0	0	0	1	8	4	1	248	3,352	13.6	10,460

新規5名、退0名

[年齢別]

事業所名	～20代	30代	40代	50代	60代～	合計
レアリゼつづき (就労継続支援B)	9	6	2	0	1	18
アバンセつづき (生活介護)	9	2	0	2	1	14

(2) 生産活動状況

[売上] 7,615,309円 (前年比 968,173円減)

[利用者工賃総支給額] 4,924,056円

[平均工賃] 12,823円/月 (賞与含む)

[収入] 7,615,309円

[支出] 7,615,281円

(3) 特記事項

○工賃維持に尽力のレアリゼ、直接対応に必死のアバンセ

レアリゼが2名、アバンセが5名の新卒利用者を加えてスタートした。

レアリゼは日常に大きな乱れなく、想定通りの日々が続いた。一方のアバンセでは、新規利用者の1名の動きに振り回されていた。彼の言動(2階への走りだし、2度の外への飛び出し)により他の利用者が共鳴・動揺し、自傷・他害を生むという結果になっていた。走り出しは1日5回以上という日もあり、夏には運営面の危機を感じていた。ちょうどレアリゼが旅行に出た頃(6月)からである。対応のマイナーチェンジを経て、「躍起になって止めない」と大幅転換したのが10月であった。幸いこれが奏功し、現場の落ち着きを取り戻すことができた。「何のために行動を止めるのか？」が分からずやってきたわけではないが、止め切れずに強化させてしまうだけであったところからの転換は、我々の支援方法の振り返りの姿勢がなければできないことである。対応転換について当初は納得できていなかった(考えが追いつかなかった)経験の浅い職員が、このことをしっかり消化して以降に生かせればよい財産となるだろう。とても意義ある1年だったと考える。

日々の混乱はなく、18名の利用者がそれぞれスキルを上げていたレアリゼだが、緩衝材の売上が低下し、下請けのシェアが上がっていた。労力が工賃に反映されないという状況になっていた。検品にかかる時間は増し、営業にかけられる時間は減少、悪循環である。年度途中で態勢も変えられず、その中で工賃保障に努めなければならないことから、利用者いない場での検品残し～残業が定例化していた。この流れは最後まで変えられず、売り上げ・工賃支給とも大幅にダウンさせてしまった。アバンセでは、5名の追加と売り上げダウンから、12月より工賃支給50%ダウンとして赤字にさせることを避けた形を取った。30年度は再度営業にかけられる時間を取れる態勢にし、ダウンの流れを解消させたい。

○生活面での支援

継続して社会資源を活用しながら余暇支援のサポート体制を維持している(継続事項・・・法人

内外の居宅介護事業所と連携し、仲間同士の小集団による外出設定)。

アバンセで予定した新規利用者の家庭訪問は、サビ管の体調不良で1名にとどまった。次年度へ持ち越すテーマである。

○作業以外の活動として、一泊旅行(レアリゼ6月、アバンセ11月)、忘年会、年度納めをレアリゼ・アバンセ別に実施。まんまるフェスタ出店はそれぞれ「フランクフルト・コーヒー」「そば・うどん」で行っている。

アバンセでは、11月より毎月1回土曜日を休日稼働日として、通常作業を行っている。中間面談で出たニーズを受けてのものであるが、毎月半数の出席率となっている。

5-2 響(響・翔)

(1) 事業運営状況

[定員] 30名

[延べ利用人数] 7,026人(前年比 368人減)

[平均利用人数] 28.7人/日

[収入] 82,753,139円(前年比 1,547,623円減)

事業所名	定員	人数	区 分							開所 日数	延べ 利用人数	平均 利用者数	前年比収入 (千円)
			無	1	2	3	4	5	6				
響(主) (生活介護)	15	16	0	0	0	0	2	1	13	245	3,591	14.7	-3,916
翔(従) (生活介護)	15	15	0	0	0	1	1	5	8	244	3,435	14.1	-2,388

新規0名、退0名

[年齢別]

事業所名	～10代	20代	30代	40代	50代	合計
響	0	8	8	0	0	16
翔	0	6	6	3	0	15

(2) 生産活動状況

[売上] 2,335,032円(前年比 156,257円増)

[利用者工賃総支給額] 2,028,110円

[平均工賃] 5,451円/月(賞与含む)

[収入] 2,335,032円

[支出] 2,334,514円

(3) 特記事項

○前年度にくさぶえ相談室より依頼を受けた利用者が引き続き響を利用中となっている。年度途中からは自力での徒歩通所を行っており、現在に至るまで懸念された大きなトラブルなく継続で

きている。しかし、本来は事業所内アバンセつづきへの移行を視野に入れた取り組みであったが、それは成されていない状況である。そのような状況となってしまったのは、予め期間を決めての受け入れではなく、本人の様子を見て、という形でスタートしている事もあるが、実際には移行に向けての動きを職員チームで作れなかった事が挙げられる。勿論、本人を抜きにして考える事ではないが、本来の利用目的を明確にして、次の動きを作り出していく必要がある。

○6月に翔利用者の母が亡くなられた。また1月には、翔利用者がてらん管轄のグループホームへの体験利用からそのまま入居を勧められる機会もあった。その他の利用者に関しても、保護者からはこのまま在宅で支えていく事への不安の声も挙がっており、入所やグループホームに入居出来ないか、という希望も出てきている。響・翔の利用者の多くが、今後も在宅生活を維持していく事は安泰ではない。これまで響・翔では家庭生活の維持と日中活動の充実とをバランス良く継続していけるような支援を行ってきた。しかし、その両立を継続していくには他事業所との連携が欠かせない。養護学校からの実習や卒業後の進路を始めとした、社会、地域、個別のニーズは待ったなしである。これらのニーズに応じていく上で、響・翔がその全てを担う事は不可能である。利用者を中心に、地域の拠点としての機能を果たし、他事業所との連携を広めていくような事業展開を成していく事が必要である。

○今年度、翔利用者で、大きなてんかん発作(重積)を起こした方が居る。また、響利用者では乖離性発作と診断を受けた方が居る。いずれもグループホームに入居されている方で、夜間に救急搬送となる事がそれぞれにあった。二人とも、投薬調整、状態観察、の為の精神科入院を経ている。他の利用者では、自宅での服薬を両親の判断で行っていたことが判明した。精神科医療との連携には、本人の状態を共有しておかなければならない為、基本的に精神科通院には職員が同行した。

○計画相談支援事業に応えるべく、相談員の配置を行っている。今年度3月からは、実際にほくぶ相談室として、計画相談支援事業の新規契約を受け始めている。

○授産については収入もさることながら、作業提供の安定を図る必要性を感じ、年度途中より受注先を増やしている。しかし単純に受注量を増やすことで、その内容によっては職員による製品管理(検品、納品)に手一杯となってしまう、反対に利用者の手が空く時間が増えてしまう、という状況に陥ってしまった。一方で前年度から試験的に開始した農作業については、十分に手をかける事が出来ず、有効に活用できなかった。今後も授産収入による還元金を増やしていく動きは継続していく。

○課外活動における利用者支援について

職員体制の変化もあり、適正な引率状況を確保出来ず、前年度のような課外活動はとれなかった。日中支援の中では、歩行を取り入れて基礎体力の維持に努めた。

○職員体制について

今年度に入り、人事異動により職員体制に大きな変化があった。また、グループホームと連携した運営を行う事となり、常勤職員は生活支援との兼務となった為、人員配置もなかなか安定しなかった。一方で非常勤職員一名が年度途中より正規職員への登用となっている。しかし職員の補充に関しては進んでおらず、常に人手不足での運営となっている。

5-3 みずほ（みずほ・びえんと・みんなの家・あかり・平和ホーム・クローバーズ・たんぼぼホーム）

(1) 事業運営状況

[定員] 48名

[延べ利用人数] 17,086人（前年比 51人増）

[平均利用人数] 46.9人/日

[収入] 133,755,515円（前年比 809,369円増）

ホーム名 共同生活援助	定員	人数	区 分							開所 日数	延べ 利用人数	平均 利用者数	前年比収入 (千円)
			無	1	2	3	4	5	6				
みずほ	8	8	0	0	0	1	0	2	5	365	2,793	7.6	-223
びえんと	9	9	0	0	2	2	4	1	0	365	3,128	8.5	954
みんなの家	5	5	0	0	3	2	0	0	0	365	2,111	5.7	-105
あかり	6	6	0	0	1	2	2	1	0	365	2,170	5.9	971
平和ホーム	8	8	1	0	0	2	3	2	0	365	2,728	7.4	-1,499
クローバーズ	6	6	0	0	0	2	1	1	2	365	2,121	5.8	-1,046
たんぼぼホーム	6	6	0	0	0	2	2	1	1	365	2,035	5.5	1,757
合計	48	48	1	0	6	13	13	7	8	365	17,086	46.8	809

新規1名、退1名

[年齢別]

事業所名	～20代	30代	40代	50代	60代～	合計
みずほ		5	3			8
びえんと	2	2	1	3	1	9
みんなの家	1	1	3			5
あかり			2	2	2	6
平和ホーム	3	2	1	1	1	8
クローバーズ		4	1	1		6
たんぼぼホーム		2	1	2	1	6
合計	6	16	12	9	5	48

(2) 特記事項

○「みんなの家」

次の段階に進む形で暮らしを創っていたOさんだったが、急遽、法人の事業計画に合わせる形で

ホームを卒業した。いきなりの異動となったことで本人もホーム側も混乱したがこの事をプラスと捉え見守りを含めてバックアップしていきたいと考える。また、次年度はホームの開設時から中心的な役割をされていた（非常勤）職員2名の退職が決まっていることで、新たなホーム運営を模索する形を創っていかなければならない。

○「びえんと」

利用者・職員とも、前年度とそれほど大きな変化はなくスタートしたが、通所先の職員体制が大きく変わったことで、春過ぎくらいからI・Hさんの情緒面が大きく崩れた一年であった。精神科への入退院を含めて様々な支援を試み、一年を経てようやく表面上は落ち着きを見せるようになった。また、I・SさんのPWS症候群の疑いも濃厚なままであり、次年度はそういったことを含めて継続して支援に当たる必要がある。利用者人員の変化としては、O・Aさんが年度末から「びえんと」の新しい仲間として加わっており、8名ホームから9名ホームに変更申請している。

○「みずほ」

年度途中より響・翔職員と担当を分担する体制となったが、勤務の割合などもあり十分に行き届いた支援ができていたとは言えない状態であった。入居者の平均年齢も40歳に近くなり、体力的な衰えも見え始める頃である。行動障害など理解が難しい方が多いが、出来ることを増やしていくことを目標にして支援していきたい。

○「あかり」

年々、利用者の高年齢化が顕著になり、ホームでの対応の難しさが浮き彫りとなった一年だった。一昨年腎炎により留置カテーテルを入れての生活となったK・Nさんは一年を通して体調の安定しない日が多くなってきており、来年度意向介護保険への移行を進めている。Nさんを含め加齢に伴う老化を支えていくホーム運営が今後の課題として挙げられる。

○「たんぼぼホーム」

障害を抱え高齢となった利用者の生活を支える中で、一人の高齢利用者を介護保険デイサービスへ移行することとなった。障害のある利用者が障害の無い高齢者の方たちに受け入れてもらえるのか不安はあったが、現在、本人は今までよりも表情良く、身体的な機能も衰えることなく過ごしている。また、高齢者を取り巻く他の利用者が高齢化するというを身近に感じ相互に協力し合うということを自身にも投影しながら受け入れ始めている。

○「クローバーズ」

それぞれの個性やライフスタイルに合わせた支援を行っていく中で、特に難治性てんかんを抱える方のご本人ご家族の強いご希望により外科的治療入院支援を行った。生活を支える立場としてご本人の困っていることや思いを汲み取り、慎重に議論し臨んだことであった。初めてのことで様々な議論があったが結果的には手術は成功しご本人と共に新たなスタートを切ることができたと捉えている。

○「平和ホーム」

「ハタチになったらホームを出て自立しますから・・・」という要望を抱いて仲間になった利用者 I・T君が、ご本人の希望通り 20 歳になった時点でホームを卒業した。18 歳で学校を卒業すると同時にホームに入居してきた方で家庭環境も複雑で難しいケースであった事から定期的に関係機関との打ち合わせを持って連携をしてきたが、就労先に於いても 2 年間仕事もしっかりとこなしていた等もあり、ご本人・親御さんの希望を汲んで送り出す形となった。I 君に対しホームとしての役割は終えたが、遠巻きに彼の生活を見守りながら応援したいと思っている。

6 上菅田地域ケアプラザ

(1) 事業運営状況

①デイサービス

年間利用者数 延べ 4,933 人（前年比 146 人減）

通所介護 3,825 人（前年比 221 人減）

予防通所介護 1,108 人（前年比 75 人増）

年間営業日数 306 日

1 日当たりの利用者数 平均 16.1 人／日

今年度は加齢に伴う自立した生活能力低下に伴い特養、老健への施設入所への流れがさらに進行し、昨年同様利用者の数は減っている。

②居宅介護支援

契約利用者数 82 名（前年比 2 名減）

年間延べ件数 898 件（前年比 154 件減）

介護認定調査 37 件（前年比 22 名減）

③地域包括支援センター

1 総合相談・支援事業

相談件数 952 件（前年比 71 件増）

訪問件数 164 件（前年比 77 件減）

2 介護予防プラン作成契約 208 人（前年比 17 件減）

年間延べ件数 2,395 件（うち、1,699 件委託）

3 地域ケア会議の開催

千丸台地区 6 回

4 権利擁護に関して

・認知症サポーター養成講座

→新井小、新井中、上菅田小、上菅田中、地区老人会、上新、笹山及び千丸台地域住民を対象に 8 回実施、合計 538 名参加（16 人増）

・認知症キャラバンメイト連絡会実施

→4、7、10、12、3月実施 91名参加（22人増）

・終活講座開催 ・消費者被害防止講座

5 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業

・ケアマネ連絡会：12回/年度

・新任、就労予定ケアマネジャー研修/区内の包括との合同開催

・ほどがやケアネットへの支援→研修会開催と役員会への参加

・保土ヶ谷合同多職種連携連絡会（医療、介護、福祉の情報交換と研修会）

3/1開催 229名

・上菅田多職種連携連絡会（認知症の研修会と情報交換会） 2/26開催 78名参加

6 介護予防事業

上菅田・上新・笹山・千丸台4地区の地域診断のもと、地域高齢者の健康長寿を目指して介護予防普及啓発事業及び・地域介護予防活動支援事業の推進に努めた。

7 各地域との連携

千丸台情報連絡会&ほつとなまちづくり会議、ぷらざカフェ千丸台、千丸台民児協定例会、ぷらざカフェ笹山、笹山地区支えあい連絡会、笹山地区ほつとなまちづくり会議、上新地区ほつとなまちづくり会議、上菅田地区ほつとなまちづくり会議、上新地区民児協定例会等、各地域会議に出席

8 地域ケア会議

千丸台地区計6回

④地域交流自主事業

1 広報活動

・まんまるだい通信毎月発行 900部

（自治会 660部、関係機関 100部、ディ 80部、他）

・各自主事業チラシの発行

→地域転骨 OB会、給食会、シニアサロン、子育てサロン他

・地域交流掲示板設置

→ホール入口脇にて自主事業、活動団体のチラシを掲示して来館者に対する情報を発信する。

2 高齢者関係・児童

・まんまる配食サービス

→第1～3水曜日（祝日は休み）、多い日は50食/日程度。

・ミニディてらん森の友

→毎月第2土曜日、介護保険を使っていない人を対象とし四季折々のイベント開催。

・健康づくり教室

→毎月第1、3木曜日

・楽しく健康体操（ケアプラ）

→2回/年（6.12月）6月25名、12月13名参加

- ・買い物お助けマン

→月～金/毎週 11：00-12：00（千丸台、新井町エリア）

- ・笹山配食サービス（幸陽園弁当）

→配達時間 15時～木/毎週、回収時間 14時～金/毎週

- ・ふれあい収集

→月.水.金 10：00～11：30、13：30～15：00、火.木 10：00～11：30

- ・どんどこ太鼓 B

→毎月第4日曜日 10：00～11：00（包括と共催）

3 障害者関係

- ・障害児余暇支援事業（区内ケアプラザ合同事業）

→春季（3月）/毎年開催

- ・福祉作業所製品の販売支援

→開館中は随時販売、併せて地域福祉祭り等の広報活動

- ・てらんこども太鼓

→毎月第4日曜日 11：00～12：00、ケアプラザエリア内5つの小中学校の個別支援学級と普通学級の合同太鼓教室開催、7/16 千丸台ふるさと祭り. 9/10 夕焼けどんどこフェスティバル. 10/30 まんまるフェスタ出演

4 子育て支援関係

- ・てらんクラブ

→親子体操教室 毎月 1.3 木曜日 10：00～12：00（30名/回）

- ・おもちゃ図書館

→部屋の開放：月～土 10：00～17：00※月は区から子育て相談者の派遣

- ・ビデオ. DVD. 布絵本. 大型紙芝居

→無料貸出

- ・きらきらコパン

→子育て支援サークル

5 地域

- ・てらんカフェ

→毎週木曜日

※コーヒー・紅茶の販売と憩いの場を提供。小物づくりは第2、4木曜日開催する。

・地域の祭り出店等：保土ヶ谷区民祭り（10/14）、まんまるフェスタ及び千丸台文化祭&福祉バザー（11/5）、ほっとな福祉健康祭り「上菅田小学校にて」（11/19）、ケアプラザ文化祭（12/2）

- ・てらん茶屋→毎月第3土曜日、上菅田地域ケアプラザレストランで実施

- ・エアロビクス教室

→「アン・ドウ・トワ」毎月月曜日（不定期）包括との共催事業

- ・千丸台朝市

→偶数月の第1日曜日

- ・まんまるフェスタ

→10/30（日）25回記念、てらん広場にて開催（毎年）

- ・手話教室

→「ひまわり」毎月第3土曜日 上菅田地域ケアプラザレストランにて実施

- ・呑み処てらん茶屋（毎月最終金曜日：プレミアムフライデー）毎回30名ほど参加

6 人材育成事業

- ・障害児余暇支援事業：区社協、学校、障害者施設、区内7ケアプラザ共催
- ・ほっとなタウンマップ：毎月保土ヶ谷区ホームページ更新作業

7 地域福祉保健計画（ほっとなまちづくり）

- ・上菅田地域ケアプラザとしての地域への関わり

→上菅田地区, 上新地区, 千丸台地区, 笹山地区の自治会、地区社会福祉協議会の会議に所長、地域包括支援センター、生活支援コーディネーター、地域交流コーディネーターから2名ずつ担当して参加している。

7 森のピーターパン

7-1 森のピーターパン

(1) 事業運営状況

[年度末契約者数] 425名（前年比18名減）

[延べ利用者数] 4,341名（前年比60名減）

[収入] 238,685千円（前年7,742千円増）

内訳	介護保険	1,976千円（44千円増）
	居宅介護	121,227千円（16,216千円増）
	移動支援	115,482千円（8,518千円減）

[年間派遣時間数]

居宅介護（家事援助・身体介護）等 28,390時間（2,051.25時間増）

内訳（身体介護7,345）時間、家事1,180.5時間、通院介護1,347.5時間

重度訪問介護858時間、行動援護17,659時間）

移動支援 50,566.5時間、通学通所945.5時間（3,562時間減）

介護保険事業 463.2時間（11.3時間減）

- 知的障害者・身体障害者・障害児・精神障害者・介護保険対象者へのヘルパー派遣事業
- 身体介護・家事援助・重度訪問介護・通院介護・行動援護（障害福祉サービス）
- 移動支援・通学通所支援（地域生活支援事業）・訪問介護（介護保険事業）

(2) 特記事項

- 移動介護→行動援護

横浜市にとっては、市負担の軽減の意味からも、移動介護→行動援護の給付換えは当然といえ

当然である。しかし、国が予定した行動援護の従事者養成のスケジュールが間に合わず暫定措置を平成30年3月31日までなのを3年延長した。国の思惑と自治体が給付する利用ニーズの乖離と県の権限である行動援護従事者養成研修指定事業者の指定が足りず、延長せざるを得なかったのが実情と見る。いずれにしても、外出の機会を得た利用者の潜在的需要があることも物語っている。

さらに移動介護を個別給付した末にニーズの多さに地域生活支援事業におろした過去の同じ轍を踏むような気もする。

○他法人からの業務譲渡

リトルクライムが9月に閉鎖するように、他法人でも人手確保に汲々とするために居宅事業・移動介護事業を閉鎖し、譲渡依頼を受けることになった。人手確保は福祉介護業界だけでなくいわゆる3K職種といわれる業界の共通の悩みである。日本社会の価値変容に期待できないようで、困ったものである。

7-2 リトルクライム

(1) 事業運営状況

[年度末契約者数] 37名

[延べ利用回数] 2075回

[収入] 24,414千円

内訳 通所給付金 23,303千円

個人負担金 1,111千円

[定員]10名

[延べ利用人数] 387人

[平均利用人数] 7.4人/日

[収入] 24,401千円

事業所名	定員	人数 (3/31)	区 分						開所日数	延べ 利用人数	平均 利用者数	前年比収入 (千円)
			無	1	2	3	4	5				
リトルクライム	10	37	37						285	2075	7.4	27,608千円

新規3名、卒業9名

[年齢別]

事業所名	小学生	中学生	高校生	合計
リトルクライム	14	8	15	37

(2) 特記事項

・29年度は、卒業生が9名に対して、年度当初に新規の利用希望者がいなかったため、全体での利用者数が減少することとなった。年度の途中で3名の新規利用の登録があり、そのアセスメントで保護者から話があったことに、「リトルクライムはとても人気があるので、空きがないと思っていた」「だめもとで電話をしてみた」という言葉があった。リトルクライムの活動内容については、保護者の間では良い評価をいただいていた、「大変な子供でもリトルクライムは断らない」

と言う話が保護者内ではあつたりと評価はされているものの、これまで自分たちから、活動についての報告や、リトルクライムの現状についての発信を行ってこなかった。自ら情報を発信していくことの必要性を感じた出来事だった。

・28年度に行ったアンケート結果に基づき、今年度はリトルクライムの会報誌を発行した。発行の方法や内容の検討に時間がかかり、12月に第1回の発行になったが、写真などを多く使い、活動の内容が分かりやすかったと、好評をいただいた。今後も継続して発行をしていく予定である。

8 西部就労支援センター

(1) 事業運営状況

横浜西部就労支援センターの運営

[登録者数] 345名（新規30名、支援停止中22名、実働支援者数323名）

[実働支援者数内訳] 身体23名、知的235名、精神69名、発達16名、高次能1名、難病1名

[登録者相談支援件数] 2291件（前年比19件増）

[求職支援者数] 69名（前年比53名減）

[定着支援者数] 276名（前年比19名減）

[新規就労者数] 25名（前年と同数）

[離職者数] 28名（前年比12名増）

[一時相談件数] 282件（未登録者支援249件、事業所14件、関係機関19件）

[収入] 36,964千円（前年比2,350千円増）

(2) 特記事項

○ 市内9か所で運営されている横浜市障害者就労支援センターの中の横浜西部就労支援センターとしての事業運営を実施してきた。（主な対象区は、旭・保土ヶ谷・瀬谷・泉）

○ 担当エリアの自立支援協議会に積極参加し、地域在住の障害当事者や地域の関係機関などへ対しての啓発活動を行った。

○ 平成27年度より、横浜市就労支援センターのあり方検討が図られており、29年度は最終年度ということでその内容を「横浜市障害者就労支援センター運営ガイドライン」としてまとめることができた。

○ 横浜市障害者就労支援推進会議と横浜市障害者施策推進協議会へ就労支援センターの立場を代表し、参加してきた。また横浜市障害者就労支援推進会議の下部組織であるハマジョブネットワーク会議に出席し横浜市の就労支援機関のネットワーク作りを行った。

9 横浜健育センター

9-1 横浜健育高等学院

(1) 事業運営状況

[定員] 60名

[収入] 17,026,810円(前年比1,328,267円減)

9-2 横浜健育自立センター、横浜健育就労移行センター

(1) 事業運営状況

[定員] 70名

[延べ利用人数] 15,416名(前年比1,024人減)

[平均利用人数] 61.7名/日(前年比4.6名/日減)

[収入] 138,201,191円(前年比7,587,591円減)

事業所名	定員	人数	区分						開所 日数	延べ利 用人数	平均利 用者数	前年比収 入(千円)
			無	1	2	3	4	5				
横浜健育自立セン ター [学院1年]	40	20	20						250	9,528	38.1	7,276
横浜健育自立セン ター [学院2年]		20	18		1	1						
横浜健育就労移行 センター[学院3年]	30	15	13		1	1			250	5,888	23.6	-14,863
横浜健育就労移行 センター		16	13			2	1					

新規24名(就労アセスメント3名含)、退27名(就労アセスメント3名含)

[年齢別]

事業所名	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
横浜健育自立センター [学院1年]	20								男 17 女 3
横浜健育自立センター [学院2年]	20								男 14 女 6
横浜健育就労移行センター [学院3年]	15								男 8 女 7
横浜健育就労移行センター	10	6							男 8 女 8

年齢の基準日はH30.3.31

9-3 織人

(1) 事業運営状況

[定員] 20名

[延べ利用人数] 3,304名（前年比279名減）

[平均利用人数] 13.8名/日

[収入] 33,974,048円（前年比 3,308,693円減）

事業所名	定員	人数	区分						開所 日数	延べ 利用人数	平均 利用者数	前年比収入 (千円)	
			無	1	2	3	4	5					6
織人	20	20	0	0	0	5	9	6	0	239	3,304	13.8	△3,309

新規2名、退2名

[年齢別]

事業所名	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計(人)
織人	0	6	5	4	1	4	0	20

(2) 生産活動状況

[売上] 1,250,423（前年比 377,822円減）

[利用者工賃総支給額] 1,006,800円

[平均工賃] 6,080円/月（賞与含む）

[収入] 1,250,423円

[支出] 1,232,116円

(3) 特記事項

- ・残念ながら年度末に2年生1名が退学となったが、3年生15名全員が無事に卒業すると共に、1年生20名と2年生19名が無事に進級を果たした。
- ・特例子会社5名を含む12名の企業就労を達成（就労移行支援全体）した。
- ・2年連続定員を超える出願数の反動等の要因もあり、次年度新入生は16名スタートとなった。
- ・織人が新たに業務執行機関の一員として加わり、主として経営（事務）管理面等の課題整理を行った。（次年度は、利用者像の近い「てらん広場第2」へ移管）

10 幸陽園

10-1 幸陽園

(1) 29年度事業運営状況

生活介護（定員35名）・就労継続支援B型（15名）・就労移行支援（6名）

○生活介護：クリーニングドライライン 農耕作業

生産活動を通じた生活の自立安定の支援

ヨガ・陶芸活動等余暇活動の実施。

農耕作業活動を継続的に実施。

農耕班にて駐車場除草作業、十日市場清掃を実施。

年度内就職者数：0名

○就労継続B型：ウェットおしぼりライン 農耕作業

生産活動を通じた生活の自立安定の支援

年度内就職者数：0名

○就労移行支援：厨房給食作業

幸陽園・リプラス・MOMOの給食調理、配食（約110食/日）を実施。

笹山自治会の依頼により、上菅田地域ケアプラザの協力のもと配食サービスを週一回継続して行っている。

年度内就職者数：0名

	定員	人数 (3/31)	区分							開所 日数	延べ利用 人数	平均 利用者数
			無	1	2	3	4	5	6			
生活介護	35	41	—	—	—	8	14	15	4	312	10,362	33.3
就労継続支援B	15	18	3	—	1	11	3	—	—	312	4,746	15.3
就労移行支援	6	3	0	0	1	1	1	—	—	256	747	3.0
合計	56	62	3	0	3	19	20	14	5		15,855	51.6

新入所者 2名 退所者 1名

(2) 生産活動状況

クリーニング作業（ダイアパー・タオルリネン：生活介護、おしぼり包装：就労B）

厨房給食作業3箇所、配食サービス（就労移行支援）

農耕事業 生産物販売

作業収入計 156,075千円（前年比 59千円増）

工賃総支給額 23,956千円 平均授産工賃 27,600円/月

	クリーニング	厨房	農耕事業	計
収入	145,799,643円	5,350,170円	4,925,916円	156,075,729円

(3) 特記事項等

幸陽園の基幹事業であるクリーニング事業及びその中での利用者支援業務が28年度より混迷を極めていた為、その建て直しを図る。まず川崎清掃の撤退を行いクリーニング工場の人員補強を目的とする。それと同時にクリーニングの未処理場スタッフをこれまで柴橋商会からの派遣で業務を行っていたのを29年度より1年間で幸陽園が主体として運営していくスタイルに移行していく動きが出てくる。

川崎清掃業務を撤退することで工場内の人員が増え年度末に向けて生産活動に余裕が出てくる。また柴橋スタッフから幸陽園スタッフに移行する中で、未処理場運営に手が入ることで、効率的な洗い業務が行えるようになり工場稼働時間が短縮される。現場に余裕が出来てきたことで、利用者支援の幅が広がり一人一人の利用者の作業支援を細部にわたり行える環境が整う。そうなる

ことで更に生産活動が効率的に行えるようになった。

農耕作業においては新たにてらん広場より利用者を迎えて活動を開始。きっかけは農耕作業であったが、現在は農耕作業、クリーニング作業に従事している。また外部販売先が増え売り上げが上がる。

厨房作業は 29 年度よりこれまで実習として入っていた利用者が移行支援事業のサービスに切り替わり、改めて就職に向けた活動をスタートしている。29 年度は就労には結びついていないが、次年度就労に向けた取り組みを継続している。

平成 29 年度は内部の活動を安定させることを念頭に活動を行った。その影響で利用者、職員が落ち着いた雰囲気の中日常の活動を行う事が出来、また利用者の新たな可能性が見いだせた 1 年だった。

10-2 リプラス

○就労継続 B 型：発泡スチロールリサイクル、川崎北部市場発泡処理業務委託、

おうち COOP リサイクルセンターリサイクル業務委託

フューチャー・エコロジー家電解体業務委託、その他軽作業

年度内就職者数：1 名

(1) 事業運営状況

	定員	人数 (3/31)	区分						開所 日数	延べ利用 人数	平均 利用者数	前年比収入 (千円)	
			無	1	2	3	4	5					6
リプラス	20	30	4	0	4	7	8	3	4	312	7,126	22.9	57,021

(2) 生産活動状況

1) リプラス保土ヶ谷工場

- ・ リプラス工場内での廃プラスチックのリサイクル（発泡スチロールのペレット化）
発泡スチロールの不純物除去作業、破砕作業
- ・ エコ容器の販売：イベント等での資源物の分別作業、エコ容器の回収
- ・ 下請け作業：バイオ製品の組み立て作業等
- ・ てらん広場との協働による作業。(月～土)
- ・ ペレット生産量 (kg)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
28年度	32247	30227	28710	32984	28641	30169	28023	25213	26523	27436	22939	25721	338832
29年度	23926	25826	26744	26884	29240	27576	26788	21781	25320	24483	23341	26057	307966
前年度比	-26%	-15%	-7%	-18%	2%	-9%	-4%	-14%	-5%	-11%	2%	1%	-9%

2) 川崎北部市場

- ・ 川崎市場における発泡スチロール処理作業の委託（川崎市より委託）：魚箱等の発泡スチロール処理にかかる作業
- ・ 下請け作業：市場内、資源物集積場での資源選別
- ・ ペレット生産量 (kg)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
28年度	—	—	—	—	—	—	30770	25371	24830	22075	22370	24060	14976
29年度	24130	29017	26940	26010	27137	29270	28810	27530	27530	24070	22720	25380	318544
前年度比	—	—	—	—	—	—	-6%	9%	11%	9%	2%	5%	113%

*29年度10月～3月までの合計 156040kg 前年度比 4%

3) おうち COOP リサイクルセンター

- ・ 古紙（チラシ、段ボール、牛乳パックなど）の不純物除去作業
- ・ てらん広場との協働による作業。おうち COOP リサイクルセンターへの出向作業（月～金）

4) フューチャー・エコロジー

- ・ 小型家電製品の解体作業
- ・ てらん広場との協働による作業。（株）フューチャー・エコロジーへの出向作業（月～金）

5) その他

- ・ 地域イベントや被災地支援イベントなど、社会貢献活動に継続的に参加した。
- ・ 生産面では発泡入庫量の自然減少に対し、企業への営業を積極的に行った。単発ではあるが減容された材料を入荷する事に成功。継続的な取引先をみつける事は出来なかった。
- ・ 長期的展望から他のリサイクル事業への参入なども視野に入れていった。
- ・ 利用者が「支援される側」から「支援する側」への仕組みの構築に向けて、引き続き模索していく。

○29年度売上 81,751 千円（前年比 14,356 千円）

利用者工賃総支払額 13,079 千円（前年比▲953 千円）

平均授産工賃 36,000 円／月 賞与含む平均

(3) 特記事項その他

ペレット生産を行ううえで、機械的なトラブルのほかに、材料によっては品質にかなりの悪影響が出ることを現場内で共有できた。利用者で行う前処理の重要性を再認識している。

おうち COOP リサイクルセンター開所に伴い、利用者の半数が施設外就労を行っている。当初、リプラスに残されたメンバーでの作業では、日々の作業を完結する事が出来なかった。しかし、今まで行ってこなかった作業を行う事により、それぞれの利用者に成長が見られた。また、5月より、てらん広場との共働での作業を開始したこともあり、日々の作業をこなしていく事に影響は出なくなってきている。

川崎北部市場では、ペレットの生産そのものは継続して行う事ができた。プラントに関しては、今だに技術的な課題が残っている状態である。今後も、品質向上への取り組みが必要である。

おうち COOP リサイクルセンターでは、10名の利用者が施設外就労に取り組んでいる。福祉施設ではない、利用者の依存先となっている。将来的には雇用の話もでており、意欲的に就労に取り組んでいる。

10-3 ブナの森

(1) 事業運営状況

緑区竹山に地域作業所として開所して23年目、生活介護事業所としては8年目に入り地域に根ざした事業所として運営を行った。

	定員	人数 (3/31)	区分						開所 日数	延べ 利用人数	平均 利用者数	前年比収入 (千円)	
			無	1	2	3	4	5					6
ブナの森	20	17				5	7	4	1	274	3,854	14.1	3,287

(2) 生産活動状況

○29年度売上 14,231千円 (前年比 379千円増)

利用者工賃総支払額 4,008千円 (前年比 208千円増)

平均授産工賃 19,650円/月 賞与含む平均

(3) 特記事項その他

- 新規事業として、事業所の隣の空きテナントを借り新たに喫茶室を運営する予定。
- 新規利用者1名(女性:18歳)の受け入れ

11 てらん広場 第1

11-1 障害者支援施設 てらん広場

(1) 事業運営状況

[定員] (1) 施設入所支援 70名 (2) 短期入所併設型 18名 (3) 生活介護 120名

[延べ利用人数] (1) 17,880人(前年比 1,543人減) (2) 5,800人(前年比 272人減)

(3) 24,035人(前年比 366人減)

[平均利用人数] (1) 49.0人/日 (2) 15.89人/日 (3) 101.9人/日

[収入] 572,083,000円(前年比 4,065,000円減)

事業所名	定員	人数	区分						開所 日数	延べ 利用人数	平均 利用者数	前年比収入 (千円)	
			無	1	2	3	4	5					6
てらん広場 (施設入所支援)	70	46	-	-	0	0	2	2	42	365	17,880	49.0	▲9,657
てらん広場 (短期入所)	18							-	-	365	5,800	15.89	2,260
てらん広場 (生活介護)	120	121	0	0	0	2	14	21	84	236	24,035	101.9	3,330

[年齢別]

事業所名	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
てらん広場 (施設入所支援)		13	21	11	1				男 35 女 11
てらん広場 (生活介護)	2	38	29	37	10	5			男 91 女 30

(2) 生産活動状況

[売上]10,843,000 円 (前年比 2,320,000 円増)

[利用者工賃総支給額]10,253,000 円

[平均工賃]6,000 円/月 (賞与含む)

[収入] 10,843,000 円

[支出] 11,343,000 円

(3) 特記事項

- ・ 10/1 付で 6 名が地域移行して GH ももやへ入居。
- ・ 12/1 付で 1 名が地域移行して GH 楓へ入居。
- ・ 2/1 付で 1 名が地域移行して GH 森の泉へ入居。
- ・ 2/5 付で 1 名が地域移行して GH こらっせへ入居。

11-2 てらん広場二次相談

[収入] 11,653,000 円

[支出] 12,161,928 円

11-3 てらん広場ひあなう

(1) 事業運営状況

障害者自立生活アシスタント事業「てらん広場ひあなう」の運営

横浜市の委託事業である「横浜市障害者自立生活アシスタント事業」を実施。

事業所障害種別は知的障害。主に、旭区・瀬谷区・保土ヶ谷区を担当している。

<対象者>

知的障害があり、日常生活において何らかの暮らしづらさを抱えている、次のいずれかに該当する方。

* 一人暮らしをされている方

* 一緒に暮らしているご家族の、高齢・病気・障害等で日常生活や社会生活上の支援を受けるのが難しい方

* 施設やGHに住んでいる、または入院中であるが、自立生活アシスタントの支援を利用しながら一人暮らしへの移行を希望する方

<支援内容>

日常生活上の相談・助言支援、情報提供・同行支援、コミュニケーション支援を行う。

- * 訪問・同行・電話による生活支援（衣食住、健康管理、消費生活、余暇活動等）
- * コミュニケーション支援（対人関係調整、職場・通所先・関係機関との連絡調整等）
- * 夜間・休日等緊急時対応

<登録状況>

- * 新規登録者数：4名
- * 登録解除者数：11名
- * 年度末登録者数：15名
- * 登録者生活状況：単身世帯6名、障害者のみの世帯2名、
ご高齢の家族と同居の世帯4名、家族と同居の世帯3名、GH入居0名

(2) 特記事項

- てらん広場第1の事業所として運営している。
- 平成13年に横浜市の事業として開始されて以来、現在まで実施事業所として委託を受け続けている。（平成29年度実施事業所数：[知的]19事業所、[精神]18事業所、[発達]1事業所、[高次脳]1事業所）
- 支援員2名（常勤1名、非常勤1名）。昨年度同様男女各1名の支援員体制である為、同性アシスタント指定の支援依頼にも支障なく対応できている。また、専用携帯電話を用い、夜間・休日含め緊急時24時間体制を取っている。今年度夜間支援件数305件。
- 主な支援の今年度実施件数：訪問支援488件、同行支援302件、電話等支援1042件。
- 自立生活アシスタント事業連絡会・研修・ブロック会議が2～3か月毎に開催されており、ほぼ全てが参加必須となっている。
- 今年度は、時間がかかってもご本人が納得または妥協できるところまで話を都度まとめる対応を心掛け行なった。その結果、進捗が見えやすくなり、生活の安定や終結に至った方が増えた。また、てらん広場ひあなうとしての知名度向上と登録希望者情報の収集にも力を入れた為、関係機関からの紹介を受ける機会も増え、ご本人から直接ひあなう指名での登録もあった。課題は、自アシ自身の知識技術や認識不足があり、ご本人やご家族の言動に託されていた思いを正しく汲み取れず、自アシ個人に対する不信感から登録解除や他自アシ事業所移管となった事例が出た事である。一層の自己研鑽に励み支援に活かしたい。

12. てらん広場 第2

12-1 生活介護事業所 こんがり堂

(1) 事業運営状況

[定員]20名

[延べ利用人数] 4,769人（前年比125人増）

[平均利用人数] 20.0 人/日

[収入] 62,242,928 円 (前年比 6,384,502 円増)

事業所名	定員	人数 (3/31)	区 分						開所 日数	延べ 利用人数	平均 利用者数	前年比収入 (千円)	
			無	1	2	3	4	5					6
こんがり堂 (生活介護)	20	22					5	7	10	239	4,769	19.9	6,384

新規 1 名、退 1 名

[年齢別]

事業所名	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
こんがり堂 (生活介護)		1	5	7	2				男 15 女 7

(2) 生産活動状況

[売上] 3,451,000 円 (前年比 91,000 円減)

[利用者工賃総支給額] 1,678,000 円

[平均工賃] 6,356 円/月 (賞与含む)

[収入] 3,451,000 円

[支出] 3,392,000 円

(3) 特記事項

- ・建物の老朽化に伴う移動先がなかなか見つからず年度を越えてしまう。

12-2 生活介護事業所 かのん

(1) 事業運営状況

[定員] 20 名

[延べ利用人数] 5,430 人 (前年比 106 人増)

[平均利用人数] 22.0 人/日

[収入] 77,093,022 円 (前年比 1,878,553 円増)

事業所名	定員	人数 (3/31)	区 分						開所日数	延べ 利用人数	平均 利用者数	前年比収入 (千円)	
			無	1	2	3	4	5					6
かのん (生活介護)	20	32					8	4	20	247	5,430	22.0	1,878

新規 1 名、退 0 名

[年齢別]

事業所名	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
かのん (生活介護)		2	2	7	3	6	1		男 21 女 11

(2) 特記事項

かのん B 棟（高齢支援）の利用者で、他事業所で作業活動もしている併用利用者のかのん利用増の傾向が強くなっている。既にかのん全体が定員枠を超えていて、事業所を増やすかその他の対応を横浜事業部全体で考える必要がある。

12-3 共同生活援助 さんぼ

(1) 事業運営状況

[定員]56 名 (H30.3 月末現在)

[延べ利用人数] 17,393 人 (前年比 1,672 人増)

[平均利用人数] 47.7 人/日

[収入] 268,651,949 円 (前年比 25,787,106 円増)

	定員	人数 (3/31)	区 分						開所 日数	延べ 利用人数	平均 利用者数	前年比収入 (千円)	
			無	1	2	3	4	5					6
銀河	9	9	0	0	0	0	1	4	4	365	3,250	8.90	1,515
ポラーノ	12	11	0	0	0	0	1	5	5	365	3,895	10.67	3,406
珊瑚	6	6	0	0	0	0	0	1	5	365	2,168	5.94	2,097
こらっせ	6	6	0	0	0	0	0	1	5	365	1,869	5.12	▲1,360
あんじゅ	5	5	0	0	0	0	1	0	4	365	1,762	4.83	893
ここのえ	9	9	0	0	0	0	1	1	7	365	3,023	8.28	▲125
ももや	9	8	0	0	0	0	0	5	3	182	1,426	7.84	
合計	56	54	0	0	0	0	4	17	33		17,393	47.67	25,786

新規 9 名、退 1 名

[年齢別]

事業所名	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代～	合計
さんぼ (共同生活援助)		1	8	28	7	男 44 女 10

(2) 特記事項

- ・ 10 月 ももや開所 (9 名定員)。てらん広場から 6 名移行。市内から 1 名受入。1 名空所。
- ・ 1 月 サテライト型より 1 名退所し自宅に戻る。
- ・ 2 月 こらっせから 1 名別の GH へ引越し。

てらん広場から緊急性高い利用者が入居。

13 まちなと

13-1 まちなとワークス

(1) 事業運営の状況

- ・「土曜日開所」は、4か所すべての事業所で月一回のペースで実施できた。
- ・近隣の特別支援学校等から実習生を受け入れ、次年度より2名の新規通所に繋がった。
- ・GH～日中活動事業所の間において、公共交通機関を利用した通勤を5名実施していたが、あらたに3か所9名（合計14名）を対象に一年を通じて実施、街の暮らしをより実感できるよう取り組んだ。
- ・「つくし」では製パン製菓作業の質の向上を目的に、「つくし」職員全員を対象に一週間の「ブナの森 研修」を実施した。3か月の休店期間ののちに営業を再開し、徐々に軌道に乗り始めている。
- ・活動内容や年齢、好みや適性などを見直し、まちなとワークス事業グループ内で6名の通所先を変更した。同時に職員も各事業所に乗り入れて、相互に支援する機会を増やした。
- ・本年度特記として、「ひより」ではより専門性を深めるべく、訪問看護・PTを積極的に導入した。また軽作業以外にも、造形やリラクゼーションや散歩など、余暇的な活動も多く取り入れた。

	定員	人数 (3/31)	区分						開所 日数	延べ利 用人数	平均利 用者数	前年比収入 (千円)
			1	2	3	4	5	6				
まちなとワークス	60	55			5	8	24	18	247	13,033	52.8	

(2) 生産活動の状況

- ・緩衝材の生産・下請け受注作業・製パン製菓作業などの活動をしている。
- ・本年度は機器故障や大掛りな修繕が比較的少なかったが、今後の機器老朽化やコスト変動による出費も見据え、備えていく必要がある。
- ・昨年度に導入した「エコキャップ仕分け（リプラスより）」や「共立紙器計装（くじら社より）」などの委託作業を安定してこなすことが出来た。
- ・生産活動の収入が+ ¥1,326,505-（前年比）と増加している。
- ・年度末集計での¥3,026,857-については利用者に還元予定。（一人あたり約¥56,000-）

<29年度 授産収支集計表>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
収入	548,954	470,880	676,539	545,978	568,672	564,701
支出	241,146	238,844	568,865	247,461	214,984	385,966
月毎の入一出	307,808	232,036	107,674	298,517	353,688	178,735

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
535,781	828,120	539,915	478,670	535,903	609,989	6,904,102
343,436	282,308	227,876	290,395	408,756	427,208	3,877,245
192,345	545,812	312,039	188,275	127,147	182,781	3,026,857

年間作業収入 6,904,102円 前年比 + 1,326,505円

工賃総支給額 4,311,900円 (1,287,900+3,024,000)

一人あたり平均工賃 6,617 円/月 前年比 + 1,444 円/月

13-2 共同生活援助・グループホームまちなと

- ・ GH ポラリスにおいて、12 月に新たな入居者を迎えた。
- ・ 入居者の希望や相性を考慮し、3 名のホーム間移動を実施した。
- ・ 本年度は 5 か所のグループホーム（ GH まちなと GH ポラリス GH 咲・楽・街 GH ななほしてんとう GH ききゅう船）でスプリンクラー設置工事を実施した。
- ・ 健康維持はもちろんのこと、日々の営みの中での誤嚥や転倒への危惧等、安全配慮や高齢化への対応が重要となっている。
- ・ H27 年度～H28 年度～H29 年度を比較すると、利用者の平均区分が 4.87→4.96→5.01 と、更に重度化も進んでいる。

	定員	人 数 (3/31)	区分						開所 日数	延べ利 用人数	平均利 用者数	前年比収入 (千円)
			1	2	3	4	5	6				
まちなと	6	6			1	3	2		365	2,016	5.5	
ききゅう船	6	6			3	1	2		365	1,957	5.3	
ななほしてんとう	6	6			1		3	2	365	2,100	5.7	
ポラリス	6	6			1		5		365	1,721	4.7	
咲・楽・街	6	6					2	4	365	2,078	5.7	
月の船	6	6					4	2	365	2,058	5.6	
ロゼット	5	5					1	4	365	1,776	4.9	
葉潤の樹)	6	6				2	2	2	365	2,006	5.5	
合計	47	47			6	6	21	14	2920	15,712	42.9	

14 リエゾン笠間

14-1 リエゾン笠間

(1) 事業運営状況

[定員] 施設入所支援 50 名 生活介護 50 名 短期入所 10 名 (稼働率 73.1%)

[入院外泊日数]925 日 [外部への通所日数]223 日 [通所受入延べ日数]1849 日

[延べ利用人数] 平成 30 年 3 月 31 日現在

	定員	人 数 (3/31)	区分						開所 日数	延べ利 用人数	平均利 用者数	前年比収入 (千円)	
			無	1	2	3	4	5					6
施設入所支援	50	50					2	6	42	365	17,325	47.5	△5,263
生活介護	50	64					3	8	53	269	14,387	53.5	
短期入所	10	3					1	1	1	365	2097	5.7	

(2) 生産活動状況

[売上] ¥401,088-

[利用者工賃総支給額] ¥337,327-

[平均工賃] ¥10,541 円/年

[収入] ¥401,088-

[支出] ¥401,088-

(3) 特記事項

運営状況

昨年度も入院日数について記載させていただきましたが、今年度も 594 日→925 日と昨年度対比で 1.56 倍の増加となっている。『重度＝医療的な支援の増加』⇒『マンパワーによる介助量増+要配慮事項の増』ということに繋がるのがより明瞭になったかといえる。当然ながら入院増に伴う施設入所の稼働率は 95%となり施設運営の収支に直結する課題として捉えているが、『入院者の増加＝職員の負担減』にもならず、日々の観察と気づきにより入院発生率をいかに抑えられるかとの緊張感が夜勤帯において特に高まった。そのため、職員のストレス緩和をはじめ、ノーリフト研修、対人援助技術の向上にむけた研修を行った。

また、日々の支援と運営が一体的になることを主としていても、アクションを起こすための時間捻出と心の余裕が課題となるため、職員の誕生日には有給取得を勧め 8 割ほど実施となる。重度化が進む環境下であっても職員や当事者による日々のチャレンジが継続されているのがリエゾン笠間の強みであり、女性 GH 設置に向けたプロジェクトチームによるアパート体験企画は、近隣アパートでは玄関サイズなどの条件が合わず断念したものの、職員の休憩室を営繕チームが改装することで、1泊2日～3泊4日の1人暮らしの宿泊体験を4人実施することが出来た。そのとき体験された皆さんの表情は生き生きとし、朝食や夕食で自炊されたものをご馳走していただいたのは予想していなかった嬉しい体験であった。

平成 30 年度には、当事者の思いに応じて北海道に飛ぶ企画が予定されている。

ついにリエゾンも空を飛べるのかとワクワクしている。

14-2 ほっぷ

(1) 事業運営状況

[定員] 共同生活援助 5 名

[延べ利用人数] 1,784 名

	定員	人数 (3/31)	区分							開所 日数	延べ利 用人数	平均利 用者数	前年比収入 (千円)
			無	1	2	3	4	5	6				
共同生活援助	5	5						1	4	365	1,791	4.9	611

(2) 運営状況

今年度は利用者さんの身体状況の変化から外出先での急変などに対応する機会が多くなったが職員の対応能力も向上しどんな場合にでも迅速な対応が行なえた。莓狩りやバーベキューについて

は、ほっぷの恒例行事となりつつあり、利用者さんの楽しみとなっている。昨年の外出行事から回数は減っているものの一つ一つの満足度は向上していると考えます。

防災設備について、平成 29 年 3 月末にスプリンクラーの設置と 9 月に防災倉庫の設置が完了した。

【主なイベント】

- 3 月 川名農園 苺狩り
- 4 月 お花見
- 7 月 上郷町 夏祭り ディズニーシー旅行
- 9 月 小菅ヶ谷北公園にてバーベキュー
- 12 月 テラスモールへの映画鑑賞（リエゾンとの合同外出）
- 1 月 初詣（春日神社）

平成 30 年度は通所先との情報交換や共有について更に密接に行なえるようにして利用者それぞれの生活支援をチームで行なえるように努める。

利用者の主体性を更に尊重するため、毎月行われている利用者会議を個々の意見が日常生活に反映できるように、意見交換などをサポートし、余暇活動・行事などについてもこの利用者会議を発信元として計画していく。

15 空とぶくじら社

15-1 第一空とぶくじら社

(1) 事業運営状況

[定員] 20 名

[延べ利用人数] 5,098 人

[平均利用人数] 21 人/日

[収入] 83,157 千円（前年比 196 千円増）

事業所名	定員	人数	区 分							開所 日数	延べ 利用人数	平均 利用者数	前年比収入 (千円)
			無	1	2	3	4	5	6				
第一空とぶくじら社 (生活介護)	20	24	-	-	-	-	2	7	15	243	5,098	21	196

新規 0 名 退所 1 名

[年齢別]

事業所名	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
第一空とぶくじら社 (生活介護)	0	2	3	2	4	1	0	1	男 13 女 10

(2) 生産活動状況

[売上] 1,152,805 円

[利用者工賃総支給額] 889,605 円

[平均工賃] 3,177 円/月 (賞与含む)

[収入] 1,152,805 円

[支出] 1,152,805 円

(3) 特記事項

・行動障害のある利用者が母と通所・帰宅途中で社会的に不適切な行動を繰り返していた。頻繁に警察沙汰となったことで、家族が親子関係が行動障害を助長していたことに気づき始めて入院というかたちで母子分離が図られ、今後は入所施設を希望するとの意向により退所となった。くじら社にとってはこれほどの激しい粗暴行為を繰り返すケースが初めてであったため、職員も戸惑い・葛藤が多かったが、学ぶことも多かった。

・少人数で外出をする「ちゃれんじプログラム」では、作業をすることと工賃のつながりを実感できるように、支給された工賃を自分で袋から出して財布に入れ、外出先で食事代を支払うという取り組みをした。工賃を使う体験をすることが少しずつ利用者の働き甲斐につながっていると感じられた。

・リズム音楽療法をベースにした「生き生きプログラム」を継続した。研修の位置づけでリズム運動療法の専門家にプログラムの様子を見ていただいて助言を受ける形をとったが、プログラムが特別な空間・時間となってしまうがちで、プログラムで発揮する力を作業や生活に応用させることの難しさを感じた。

・職員体制が整わなかったため、一泊旅行を日帰りのグループ旅行に変更した。(第二くじら社と合同)

15-2 第二空とぶくじら社

(1) 事業運営状況

[定員] 40 名

[延べ利用人数] 9,164 人

[平均利用人数] 37.8 人/日

[収入] 94,659 千円 (前年比 1,841 千円増)

事業所名	定員	人数	区 分						開所 日数	延べ 利用人数	平均 利用者数	前年比収入 (千円)	
			無	1	2	3	4	5					6
第二空とぶくじら社 (生活介護)	40	43	-	-	0	3	11	18	11	243	9,164	37.8	1,841

新規 0 名、退所 0 名

[年齢別]

事業所名	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
第二空とぶくじら社	0	6	4	5	6	0	1	0	男 22
(生活介護)	0	3	7	5	6	0	0	0	女 21

(2) 生産活動状況

[売上] 10,045,056 円

[利用者工賃総支給額] 3,390,650 円

[平均工賃] 6,571 円/月 (賞与含む)

[収入] 10,045,056 円

[支出] 10,045,056 円

(3) 特記事項

・地域の町内会や社協、各種団体から印刷を請け負うことが増え、それに伴って利用者が印刷作業の主力となることが増えた。

・手書きのメッセージカードを書く作業を請け負ったが、作業導入の際に職員自身が作業をきちんと体験することがないままに受けてしまった。不良が多数出たことで収支や生産ペースの見通しが甘かったことに気づき、治具を作ったり、生産ペースのコントロールをし、あらためて新作業導入時のルールを設定した。

・美術ワークショップを生産活動の一環とした。共同制作や個人製作を織り交ぜた質の高い作品をモチーフとした製造数限定のオリジナルカレンダーは予想以上に好評だった。

・職員体制が整わなかったため、一泊旅行を日帰りのグループ旅行に変更した。(第一くじら社と合同)

15-3 第三空とぶくじら社スマイル

(1) 事業運営状況

[定員] 24 名

[延べ利用人数] 5,566 人

[平均利用人数] 22.8 人/日

[収入] 49,004 千円 (前年比 5,950 千円減)

事業所名	定員	人数	区 分							開所 日数	延べ 利用人数	平均 利用者数	前年比収入 (千円)
			無	1	2	3	4	5	6				
スマイル (生活介護)	24	25	-	-	0	5	11	7	2	245	5,566	22.8	5,950

新規 2 名 退所 0 名

[年齢別]

事業所名	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
スマイル	0	6	1	3	3	1	2	0	男 16
(生活介護)	2	0	1	1	3	1	1	0	女 9

(2) 生産活動状況

[売上] 3,622,554 円

[利用者工賃総支給額] 2,035,420 円

[平均工賃] 6,785 円/月 (賞与含む)

[収入] 3,622,554 円

[支出] 3,622,554 円

(3) 特記事項

- ・作業収入の減少が見込まれたため、工賃支給規定を変更して月々の工賃を減額した。
- ・年度後半にビニール製の巾着袋のひも通しなどの新作業を導入したが、多数の利用者が参加でき、生産も順調に伸ばすことができた。
- ・加齢に伴って身障のある利用者の介護度が高まったが、職員の退職などがあり、対応に苦慮した。
- ・忘年会を初めてご家族が参加する形で開催した。準備期間が1週間程度と短かったが、利用者・職員で協力して工夫を凝らし、参加者全員が楽しめる企画とすることができた。
- ・職員体制が整わなかったため、一泊旅行を日帰り旅行に変更した。

15-4 第三空とぶくじら社パン工房ヴェスタ

(1) 事業運営状況

[定員] 11 名

[延べ利用人数] 2,555 人

[平均利用人数] 10.2 人/日

[収入] 21,250 千円 (前年比 1,817 千円増)

事業所名	定員	人数	区分						開所 日数	延べ 利用人数	平均利用 者数	前年比収入 (千円)	
			無	1	2	3	4	5					6
パン工房ヴェスタ (就労継続B型)	11	12	1	0	0	6	2	2	0	252	2,555	10.2	1,817

新規 0名、退所 0名

[年齢別]

事業所名	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
パン工房ヴェスタ	0	3	1	0	0	0	0	0	男 4
(就労継続支援B型)	0	2	1	2	1	1	0	0	女 7

(2) 生産活動状況

[売上] 6,137,189 円

[利用者工賃総支給額] 1,942,285 円

[平均工賃] 14,714 円/月 (賞与含む) ※ 工賃変動積立金取崩 20 万円あり)

[収入] 6,137,189 円

[支出] 6,137,189 円 ※原価償却費含む

(3) 特記事項

・加齢に伴って排泄の支援を要したり、パンを作る工程を忘れてしまったり、作業でやっていたことを忘れてしまう利用者が増えた。食品を扱う作業への参加は限界と思われる利用者が継続して第三くじら社に通うことができるようにするため、次年度よりパン工房ヴェスタを就労継続支援B型から生活介護へ変更することにした。

・粗暴行為や他の利用者への迷惑行為を繰り返す自閉傾向の利用者への対応に苦慮した。作業をする以前の生活上の課題もあり、通所もままならない状態を変えるために利用者ご本人とご家族や地活の相談と話し合いを重ねたが、話し合いが功を奏する期間が短く、ご本人の意識や行動の改善には至らなかった。

・材料費の高騰や売上げが思うように伸びなかったことから、工賃積立金の取り崩しをしたが、年度末に製パン機材の故障があり、結果的には収支が赤字になる見込みとなった。

・職員体制が整わなかったため、一泊旅行を日帰り旅行に変更した。

15-5 ハイムかわしま

(3) 事業運営状況

[定員]65 名

[延べ利用人数] 21,678 人

[平均利用人数] 59.4 人/日

[収入] 298,353 千円

事業所名	定員	人数	区分						開所 日数	延べ 利用人数	平均利用 者数	前年比収入 (千円)	
			無	1	2	3	4	5					6
ハイムかわしま	65	62	0	0	1	3	21	18	19	365	21,678	59.4	137,446

新規 1 名、退所 2 名

[年齢別]

事業所名	～50代	60代	70代	80代	90代～	合計
ハイムかわしま (共同生活援助)	50	4	8	0	0	62

(4) 特記事項

・4月から旧飛鳥の5ホームが組織統合され、7月1日付で正式にハイムかわしまとしての再スタートを切った。

- ・2人の主任と1人の主任補が中心となって3チームに分けて運営を行ったが、次年度は主任の異動となるため男女別の2チームに分かれて運営をすることにした。
- ・5ホームのうち3ホームが男女混合で職員配置も合理性に欠けていたため、入居者の入れ替えを行い、年度末で男女混合をすべて解消した。男性ホームは運営の改善の必要性が指摘されてもなかなか具体的な改善に至らなかった。成り立ちが違う組織の統合の難しさ、職員の意識を変えることの難しさを感じさせられた。
- ・1月にハイムかわしま第三の高齢の女性入居者が亡くなった。付き合いの長かった入居者や非常勤職員も駆けつけて皆で見送り、数日後にあらためてお別れ会を行った。ターミナルケアの大切さと難しさを学んだ。
- ・スプリンクラーの設置期限が迫っていたため、老朽化した旧飛鳥の3ホームを2ホームに整理して移転する計画を立て、移転の補助金がかなくても自主財源で移転を行うことで法人の承認を得た。当初は2ホームを同じ敷地に建てる計画だったが、敷地の関係で同じ敷地に建てることができなくなり、1ホームは場所が確定しないまま年度を越すこととなった。

16 地域生活支援センター1

「利用者全員の人権が保障され、心豊かに地域生活が出来るように、100人100様のその人らしい暮らしの支援、本人本位の支援を行う」を方針に生活支援を展開した。

16-1 生活介護事業 [あしび]

(1) 事業運営状況

知的高齢者中心に日中活動を行った。

高齢により、喀痰が必要な状態もあったが、看護師の協力のもと、適宜、喀痰を行いながらも日中活動に参加していただいた。

咲顔の詩より2名あしびに異動した。

	定員	人数 (3/31)	区分						開所 日数	延べ利 用人数	平均利 用者数	前年比収入 (千円)	
			無	1	2	3	4	5					6
あしび	20	14				1	1	6	6	237	2,436	10.3	△3,880

16-2 生活介護事業 [咲顔の詩]

(1) 事業運営状況

地域生活支援センターホーム利用者が、仕事・作業中心の生活から休息が必要な時に、受け皿として機能してきた。

「あしび」と「咲顔の詩」と合同で、療育センターPTの指導のもと介護技術研修を行った。

	定員	人数 (3/31)	区分						開所 日数	延べ利 用人数	平均利 用者数	前年比収入 (千円)	
			無	1	2	3	4	5					6
咲顔の詩	20	27			1	7	4	7	9	237	3,503	14.8	△1,046

16-3 共同生活援助[なかまの家1]

(1) 事業運営状況

[なかまの家]事業所 定員 75 名

	定員	人数 (3/31)	区分						開所 日数	延べ利 用人数	平均利 用者数	前年比収入 (千円)	
			無	1	2	3	4	5					6
あかね荘	5	5				3	2		365	1,825	5.0	△3,410	
かりん	5	5					1		4	365	679		1.9
青い鳥	5	5			1	2			2	365	1,800		4.9
自然荘 1.2	9	9			2	4		2	1	365	3,246		8.9
ひまわり 1.2	8	8				3	2	1	1	365	2,829		7.8
森の泉 1.2	9	9					1	3	5	365	2,965		8.1
さつき	8	8					2	3	3	365	2,656		7.3
稲穂	9	8					3	1	4	365	3,063		8.4
秋元荘	6	5			1	3	1			365	1,913		5.2
ハイツなるみ	廃止									255	1,076		4.2
上原荘⇒飛鳥	6	5			1	2		2		365	1,777		4.9
カーサ中白根	5	5					2	1	2	365	1,665		4.6
合計	75	71			5	17	14	13	22	365	25,494		69.8

(2) 特記事項

○平成 29 年度当初、飛鳥事業所は地域生活支援センターとハイムかわしまに分割され、4 件の GH を吸収した。上半期はセンター第 4 事業所として運営を行ったが、下半期の組織改編に伴い、第 1 事業所に吸収された。

○建物老朽化に伴い、12 月に上原荘を飛鳥（旭区中白根）に移転した。それに伴い、Mさんが単身生活を目指して退居された。

○ハイツなるみは、水害浸水地域にあり、建物老朽化と生活環境が劣悪だったために、12 月に利用者を地域生活支援センター運営下 GH の空き室に異動し、廃止をした。

○かりんが実質的に空き GH と化していたが、ハイツなるみの利用者異動に伴い運営を再開した。

○ひまわり利用者の Kさんが肺炎のため、平成 30 年 3 月 18 日にご逝去された。（享年 66 歳）

○前年度の利用者の食物窒息誤嚥事故を教訓化するために安全管理委員会を開催し、「食事における窒息事故の防止と食事支援への配慮について」の研修を 1, 2 の全支援者対象に行った。

○その他、AED と救急救命法の訓練研修、鶴見大学歯学部の菅教授を招聘した摂食嚥下研修、日本アンガーマネジメント協会の松崎講師を招聘したアンガーマネジメント研修、他内部研修等に取り組んだ。

17 地域生活支援センター2

17-1 共同生活援助[なかまの家2]

(1) 事業運営状況

[なかまの家]事業所 定員 70 名

	定員	人数 (3/31)	区分						開所 日数	延べ利 用人数	平均 利用 者数	前年比収入 (千円)	
			無	1	2	3	4	5					6
ゆーとびあ	4	4			2	1			1	365	1350	3.7	+8,621
せきれい	6	6			1		2	2	1	365	2076	5.7	
けやき	6	6				3	1	1	1	365	1821	5.0	
すずらん	5	5		1		1	2	1		365	1465	4.0	
おりもホーム	8	6				1	2	2	1	365	2120	5.8	
コスモガーデン1.2	10	9				4	4		1	365	3033	8.3	
楓1.2	9	9					1	1	7	365	2725	7.5	
ゆがふ1.2	9	8				1	2	2	3	365	2535	6.9	
サルヴィア1.2	9	9				2	5	1	1	365	2992	8.2	
ひかりそう	6	6				2	4			365	1908	5.2	
合計	70	68		1	3	15	23	10	16	365	22025	60.3	

(2) 特記事項

○年度当初、空き室7室であったが、てらん広場からのホーム入居や地域相談室からの相談ケースで在宅からホーム入居等で、空き室2まで減少した。

(空き室1は地域生活支援センターの計画的空き室、空き室2は1.2ホーム利用者10名を職員1名で運営しているため、負担が大きいため受け入れができない)

○けやきホーム 利用者Yさんが平成29年9月27日 急性呼吸不全のためご逝去された。(享年62歳)

18 RAKU

小規模多機能型居宅介護

(1) 事業運営状況

- ・登録定員 25名 年間平均23名/月
- ・年間介護度 平均2.5
- ・年間通い延べ人数 5351名 稼働率 98% (定員15名)
- ・年間泊り延べ人数 2439名 稼働率 74% (定員9名)
- ・訪問延べ人数 2437名

・延長ケア（5：30～10：00 16：00～19：30）人数年間延 488名（月平均24名）

定員 (名)	延べ 人数 (名)	年度末要介護度別人数（名）計20名							営業 日数	平均 利用者数
		支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5		
25	281	0	1	2	7	6	3	1	365	23

[収入]

年度	収入（円）	前年比（円）
平成28年度	80,907,675	
平成29年度	92,425,000	11,517,325

(2) 特記事項

登録者の介護度が上がり、「通い」「訪問」の緊急時対応が多かった。常勤職員2名が退職し、年明けから「通い」利用者対職員数の法的規制を遵守することが難しくなった。求人も思うように進まず、年度末には登録定員を減らすことになった。

19 あおぞら・てらん訪問看護ステーション

(1) 事業運営状況

[年度末契約者数] 78名（前年比1名増）

[年間利用者数] 963名（前年比13名増）

[年間訪問回数] 6762回（前年比808回増）

[平成29年度新規利用者数] 95人（前年比20人増）

[平成29年度終了者数] 86人（前年比21人増）

[収入] 81,642,019円（前年比9,157,643円増）

内訳 訪問看護事業 介護保険 44,946千円（3,478千円増）

医療保険 28,745千円（5,405千円増）

居宅介護支援事業 7,950千円（276千円増）

常勤看護職員 4名（常勤換算数3.3）

非常勤看護職員 6名（常勤換算数3.4）

居宅介護支援専門員 3名 [うち主任居宅介護支援専門員1名・看護師兼務2名]
（常勤換算数1.5）

事務担当者 1名

(2) 特記事項

グループホームの健康相談業務（施設間契約）

- ・グループホームたのしい家三枚町2ユニット（計18名）

週1回訪問し、入居者全員の健康相談

地域のボランティア

- ・千丸台団地総合防災訓練への参加
- ・新井小学校地域防災拠点に於ける防災訓練への参加

防災訓練に参加している地域住民の方の血圧測定（年各1回）

看護学生の実習受け入れ

- ・一般社団法人横浜市医師会 保土谷看護専門学校
- ・学校法人昭和大学医学部附属看護専門学校
- ・神奈川県立保健福祉大学

以上

VI. 東京事業本部

1. あすなろ作業所

(1) 事業運営状況

- [定員] 80名（就労継続支援B型30名、生活介護50名）
- [延べ利用人数] 17,500人（前年比821人増）
- [平均利用人数] 68.09人/日
- [収入] 233,176千円（前年比17,043千円増）

事業名	定員	人数	区分							開所 日数	延べ利 用人数	平均利 用者数	前年比収 入（千 円）
			無	1	2	3	4	5	6				
あすなろ作業所 （就労継続B）	30	31	1	0	8	7	13	2	0	257	7,214	28.4	-3,215
オリーブ （生活介護）	22	28	0	0	0	6	7	9	6	257	6,205	24.1	-1,119
ぽぷら （生活介護）	20	12	0	0	0	1	2	1	8	257	2,672	10.4	26,264
マングローブ （生活介護）	8	7	0	0	0	0	2	3	2	257	1,409	5.5	-1,885

新規6名、退所4名、上井草閉鎖-3,000（千円）

[年齢別]

事業所名	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
あすなろ作業所	0	4	1	8	1	1	1	男 16
(就労継続 B)	0	4	4	3	2	2	0	女 15
オリーブ	0	5	5	3	5	0	0	男 18
(生活介護)	0	3	1	2	3	1	0	女 10
ぽぷら	3	6	1	0	0	0	0	男 10
(生活介護)	1	0	0	1	0	0	0	女 2
マンガローブ	0	2	1	2	0	0	0	男 5
(生活介護)	0	1	1	0	0	0	0	女 2

(2) 生産活動状況

[売上]	14,909,895 円 (前年比 8,437,547 円減)
[利用者工賃総支給額]	9,669,222 円
[平均工賃]	10,351 円/月 (全体 賞与含む) 17,777 円/月 (B型 賞与含む)
[収入]	14,909,895 円
[支出]	14,909,895 円

(3) 特記事項

- ・ぽぷらに特別支援学校を卒業した新規利用者が 4 名入所。転居により平成 27 年度に退所した利用者が 7 月に戻り 1 名入所。ぽぷら利用者が 12 名となり、送迎車が 2 台体制となる。
- ・就労 B 型に利用者 1 名入所。(チャレンジ雇用後の再入所)
- ・退所者 生活介護 2 名(転居)、就労 B 型 1 名(入院)、生活介護 1 名(死去)計 4 名
- ・中野特別支援学校高等部 3 年生の生活介護事業対象の実習依頼がある。後期に生活介護(ぽぷら、オリーブ、マンガローブ)、就労 B 型に延べ 12 名の実習受け入れを行う。平成 30 年 4 月にぽぷらへ新規利用者 3 名の入所が決定した。
- ・上井草スポーツカフェマンガローブを平成 28 年 3 月に閉店し、今年度は新たな体制で自主生産、店舗業務を実施。B 型が店舗業務を担い、利用者が参加した。売り上げ目標は達成されず、今後の運営、利用者参加についての課題が残る。
- ・マンガローブの利用者送迎を 4 月 27 日より業務委託とする。ぽぷら、あすなろ、マンガローブの送迎が業務委託となり、職員の運転の負担軽減と事故率の低下につながった。
- ・精神科嘱託医の大坪先生より、平成 28 年度の全体研修、4 月 26 日に実施した内部研修で学んだ応用行動分析を支援の場に取り入れ、実践出来るよう、年間 5 回、先生によるケースカンファレンスを実施し、根拠を持った支援が行えるように、日々の支援に取り入れている。
- ・あすなろ対話会を 7 回実施した。あすなろの使命、目的、目標を職員と共有・共働するリーダーを育成する場とし、組織力の強化を目指した。
- ・平成 29 年度は、正規職員 3 名、非常勤 6 名が退職した。様々な理由があったが、施設としての

採用、育成を考え、離職率を下げ、定着率を上げるように取り組むことが必要である。

- ・設備点検時に空調機器経年数が 20 年経過。設計耐用年数は 15 年で 5 年超過しており、機器の更新あるいはオーバーホールが必要。杉並区と協議し、平成 30 年度に修理実施予定。また、厨房機器（殺菌庫、ガスレンジ、炊飯器）の不具合発生があり、修繕と機器の交換を実施した。今後も修繕等必用な物が増える事が予測される。
- ・杉並区と 10 事業体 31 事業所間で、障害福祉サービス提供の課題・提案の情報交換会を実施。杉並区からは、障害福祉部長、障害者生活支援課長、障害者施策課長が参加。障害福祉計画実行計画の見直しと、次の 10 年計画の策定に当たり、事業所側からの課題や提案を聞く場と位置付けられ実施した。

2. ひゅーまんネット

(1) 事業運営状況

[年度末契約者数]	170 名（前年比 9 名増）
[述べ利用者数]	5,652 名（前年比 9 名増）
[収入]	53,665 千円（前年比 544 千円増）
（内訳）	介護保険 1,279 千円（前年比 394 千円増）
	居宅介護 4,047 千円（前年比 482 千円減）
	移動支援 48,340 千円（前年比 252 千円減）

[年間派遣時間数]

居宅介護（家事援助・身体介護）等 1,235 時間（前年比 29 時間増）

（内訳）

身体介護 222 時間 家事援助 84 時間 通院介護 134 時間
行動援護 50 時間 重度訪問介護 564 時間

移動支援 19,944 時間（前年比 100 時間減）

介護保険事業 322 時間（前年比 40 時間増）

(2) 特記事項

- ・介護保険の利用者を新規で契約し、収入増につながった。
- ・行動援護の支給決定を受けていた利用者が移動支援（身体あり）に変更になり、収入減となった。
- ・移動支援については、曜日の並びから支援依頼が件数・時間共に前年度より減少。また、雪等の荒天のためのキャンセル、利用者の方の体調不良等によるキャンセルで実績時間も減少となった。
- ・東京都知的障害者移動支援従業者養成研修を 3 回実施。杉並区から委託を受けてすぎなみ地域大学という市民講座で杉並区移動支援従業者養成研修を実施し、新規ヘルパーの契約に繋がった。

3. ひゅーまん地域生活相談室

(1) 事業運営状況

[年度末契約者数]	87名（前年比 89名減）
[計画作成数]	89件（前年比 52件減）
[モニタリング作成数]	191件（前年比 169件減）
[収入]	4,360千円（前年比 3,403千円減）

	計画作成数	モニタリング 作成数	収入 (千円)	前年比収入 (千円)
大田区	2	18	296	
渋谷区	3	29	474	
世田谷区	1	1	32	
杉並区	83	143	3,556	
計	89	191	4,360	7,709

(2) 特記事項

①契約者について

新規契約者～1名（内訳：杉並区～1名、渋谷区～0名、世田谷区～0名）

契約解除 ～4名（内訳：杉並区～3名、渋谷区～1名、世田谷区～0名）

事由：転居～1名、他事業所移行～1名、介護保険移行～2名、その他～0名

*大田区については4月のみ実施し、5月から大田地域生活相談室へ移行。

②モニタリング作成について

計画更新に伴うモニタリングは請求対象にならないため、上記の数字は請求対象の件数。

請求対象にならないモニタリング数は76件で、総数は269件。

③その他

報酬算定構造上、相談員1名が200件以上担当しないと黒字化にならない現状のため、法人への収益的な貢献は困難な中で、相談支援事業に関わる職員がどのような形で法人や地域、行政に貢献できるかを念頭に置いた結果、一般相談（計画作成依頼も含め）9件実施。また、杉並区自立支援協議会の相談支援部会への参加、練馬区認定審査委員を担当するなど行政への協力。虐待案件発生のGHへの研修のコーディネート等を実施した。

4. ほんまちハイム

(1) 事業運営状況

[定員]	6名
[延べ利用人数]	1,729人（前年比 54増）
[平均利用人数]	4.73人／日

[収入]

26,990 千円（前年比 796 千円増）

事業名	定員	人数	区分						開所 日数	述べ利 用人数	平均利 用者数	前年比収 入（千 円）	
			無	1	2	3	4	5					6
ほんまちハイム (共同生活援助)	6	6				1	3	1	1	365	1,729	4.73	796

新規 0 名、退所 0 名

[年齢別]

事業所名	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
ほんまちハイム (共同生活援助)				3	1		2	男 2 女 4

(2) 特記事項

- ・ 8/29 東京都の委託業者による地盤調査実施。11/8 地盤調査結果報告。現在のところ地盤に大きな問題はなく、建物の倒壊の危険性はなしとのこと。
- ・ 9/30 70代の女性利用者 介護保険認定調査実施。12/20 通所途中の駅で腰痛により、ホームベンチに寝ていたところ、駅員が気づき事務所に搬送となる。職員迎えに行き帰寮となる。
- ・ 12/16 外門扉の当逃げ事故あり。警察に事故届提出。
- ・ 12月 インフルエンザ A 1名 罹患

5. 堀ノ内ハイム

(1) 事業運営状況

[定員]	14 名
[延べ利用人数]	4,111 人（前年比 432 増）
[平均利用人数]	11.26 人／日
[収入]	61,051 千円（前年比 4,230 千円増）

事業名	定員	人数	区分						開所 日数	述べ利 用人数	平均利 用者数	前年比収 入（千 円）	
			無	1	2	3	4	5					6
堀ノ内ハイム (共同生活援助)	14	14	1		1	2	3	4	3	365	4,111	11.26	4,230

新規 0 名、退所 0 名

[年齢別]

事業所名	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
堀ノ内ハイム (共同生活援助)			3	4	3	4		男 8 女 6

(2) 特記事項

- ・一年を通してサビ管・世話人・生活支援員・事務員の欠員状況改善されず。現場では重度、高齢化が進んでいることに反し、未経験職員率が高くなってきており、支援の質の低下、事務の停滞が著しい状況。
- ・5/7 自閉症の男性利用者 A さん 入浴時の大声に対し、近隣より苦情あり（即謝罪）。
- ・7/18 利用者 B さん ご家族からの発作対応への希望から居室移動（2階北側の夜勤室り）。
- ・10/7 自宅にて発作続き入院。
- ・8/29 自閉症の男性利用者 C さん 作業所からの帰寮時、送迎車内にて他利用者に対してのかみつぎ行為あり。その後、居室の照明カバー等も破壊。
- ・10/6 自閉症の男性利用者 A さん 帰寮時から情緒不安定で大泣き。近隣から警察に通報。10月より訪問看護導入とともに漢方薬と頓服で安定剤の服薬開始となる。
- ・11/12 グループホーム入居者交流会実施。
- ・12/23 クリスマス利用者・家族懇親会（保護者 8 名出席）実施。
- ・虐待防止・自閉症学習会 3 回実施。
- ・12/6 60代女性利用者 ハイム内で足を捻り、右足薬指を骨折
- ・12月 インフルエンザ A 1名 B 1名 罹患
- ・1/12・13 家賃改定のため保護者説明会実施。
- ・2月 インフルエンザ B 1名 罹患

6. 浜田山ハイム

(1) 事業運営状況

[定員]	5名
[延べ利用人数]	1,502人（前年比 11 減）
[平均利用人数]	4.12人/日
[収入]	22,578千円（前年比 54千円増）

業名	定員	人数	区分						開所 日数	述べ利 用者数	平均利 用者数	前年比収 入（千 円）	
			無	1	2	3	4	5					6
浜田山ハイム (共同生活援助)	5	5				3	2			365	1,502	4.12	54

新規 0 名、退所 0 名

[年齢別]

事業所名	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
浜田山ハイム (共同生活援助)		1		2	1	1		男 5 女

(2) 特記事項

- ・一年を通してサビ管・世話人・生活支援員の欠員状況改善されず。
- ・4/5 休職中であった職員 逝去。
- ・4/28 自動火災報知器設置。
- ・7/24 利用者、脱衣室にて転倒、肋骨骨折。
- ・9/15 16時過ぎに駅職員から作業所に利用者 A さんが電車を止めたとの電話連絡あり。閉まった電車のドアに触れたため、緊急停止したとのこと。本人に怪我はなし。
- ・11/12 グループホーム入居者交流会実施。
- ・12/21 クリスマス会実施（オーナー親子出席）。
- ・12月 インフルエンザ A 2名 罹患
- ・1月 ウイルス性胃腸炎 3名罹患

7. 大泉福祉作業所・大泉つつじ荘

7-1 大泉福祉作業所

(1) 事業運営状況

①就労継続支援B型

[定員]	66名
[延べ利用人数]	10,336人（前年比-1,118人減）
[平均利用人数]	41.8人/日
[収入]	委託費：147,533,558円（前年比 6,941,908円減）

②就労移行支援

[定員]	10名
[延べ利用人数]	986人（前年比-21人増）
[平均利用人数]	4.0人/日
[収入]	委託費：23,246,772円（前年比 2,485,647円減）

事業名	定員	人数	区分						開所 日数	述べ利 用人数	平均利 用者数	前年比収 入(千円)	
			無	1	2	3	4	5					6
大泉福祉作業所 (就労継続支援 B)	66	52	14		3	10	17	6	2	247	10,336	41.8	-6,941
大泉福祉作業所 (就労移行支援)	10	6	4		1		1			245	986	4.0	-2,485

*人数・区分は平成29年4月1日現在。

就労継続支援B型：年度内入所者0名、年度内退所者7名、年度末在籍数46名

就労移行支援：年度内入所者1名、年度内退所者5名、年度末在籍数4名

[年齢別] 平成29年4月1日付

事業所名	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
大泉福祉作業所 (就労継続支援 B)	男1 女1	男6 女2	男12 女7	男10 女2	男3 女5	男0 女3		男32 女20
大泉福祉作業所 (就労移行支援)	男1 女0	男4 女0		男0 女1				男5 女1

(2) 生産活動状況 (就労移行含む)

[売上]	3,501,604円 (前年比 1,093,246円減)
[利用者工賃総支給額]	3,405,500円
[平均工賃]	5,501円/月 (賞与含む)
[収入]	2,869,196円
[支出]	632,408円

(3) 特記事項

*大泉福祉作業所・大泉つつじ荘3期目指定管理受託中(平成28年度～5年間)

7-2 大泉つつじ荘

(1) 事業運営状況

① 共同生活援助

[定員]	8名
[延べ利用人数]	2,288人(前年比-528人)
[平均利用人数]	6.26人/日
[収入]	委託費：23,118,849円(前年比2,322,968円増)

② 短期入所

[定員]	4名
[延べ利用人数]	1,717人(前年比-3人)
[平均利用人数]	4.70人/日
[収入]	委託費：11,691,981円(前年比1,278,578円増)

③日中一時支援

[定員] 最大 6 名（短期入所 4 名含む）
 [延べ利用人数] 356 人（前年比+11 人）
 [平均利用人数] 0.97 人／日
 [収入] 委託費：11,180,406 円（前年比 743,538 円増）

事業名	定員	人数	区分						開所 日数	述べ 利用人数	平均利 用者数	前年比収 入（千 円）	
			無	1	2	3	4	5					6
大泉つつじ荘 (共同生活援助)	8	6	2		3	1				365	2,288	6.26	+2,322
大泉つつじ荘 (短期入所)	4									365	1,717	4.70	+1,278
大泉つつじ荘 (日中一時支援)	最大 6									365	356	0.97	+743

*人数欄は、平成 29 年 4 月 1 日現在

*共同生活援助：新規入所 4 名、年度内退所 4 名 年度末利用者数 7 名

[年齢別] 共同生活援助 平成 29 年 4 月 1 日付

事業所名	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
大泉つつじ荘 (共同生活援助)		男 1 女 1	男 1 女 2	男 1				男 3 人 女 3 人

(2) 特記事項

*大泉福祉作業所・大泉つつじ荘 3 期目指定管理受託中（平成 28 年 4 月～ 5 年間）

8. 東大泉ハイム

(1) 事業運営状況

[定員] 9 名
 [延べ利用人数] 2,629 人（前年比 302 減）
 [平均利用人数] 7.20 人／日
 [収入] 26,428,192 円（前年比 3,562,232 円減）

平成29年4月1日時点

事業名	定員	人数	区分						開所日数	述べ利用人数	平均利用者数	
			無	1	2	3	4	5				6
東大泉第一ハイム (共同生活援助)	5	5					3	2		365	1,565	4.28
東大泉第二ハイム (共同生活援助)	2	2	2							365	730	2
東大泉第三ハイム (共同生活援助)	2	1			1					365	334	0.91

年度内新規入所者0名、年度内退所者1名（H29.6月死去） 年度末在籍者7名

[年齢別] 平成29年4月1日時点

事業所名	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
東大泉第一ハイム (共同生活援助)	0	0	男1 女0	男3 女0	男1 女0	男0 女1	0	男4 女1
東大泉第二ハイム (共同生活援助)	0	0	男0 女1	0	0	男0 女1	0	男0 女2
東大泉第三ハイム (共同生活援助)	0	男1 女0	0	0	0	0	0	男1 女0

(2) 特記事項

東大泉第3ハイムをH30.3.31付で廃止（東京都へ変更届申請済）。

9. 加賀福祉園

9-1 加賀福祉園（就労継続支援B型・生活介護）

(1) 事業運営状況

[定員]	85名
[延べ利用人数]	17,305人（前年比549人増）
[平均利用人数]	70.9人/日
[収入]	166,503千円（前年比10,559千円増）

事業名	定員	人数	区分							開所 日数	述べ利 用人数	平均利 用者数	前年比収 入(千 円)
			無	1	2	3	4	5	6				
加賀福祉園 (就労継続支援 B)	60	50	17	2	5	9	9	6	2	244	11,369	46.6	2,090 増
加賀福祉園 (生活介護)	25	31	0	0	0	0	1	7	23	244	5,936	24.3	8,469 増

新規 4 名、退所 7 名

[年齢別]

事業所名	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計	
加賀福祉園 (就労継続支援 B)	4	7	7	7	7	5	1	男	38
	0	2	1	0	6	3	0	女	12
加賀福祉園 (生活介護)	1	12	2	4	1	0	0	男	20
	1	4	3	2	1	0	0	女	11

(2) 生産活動状況

[売上]	9,537,851 円 (前年比 203,596 円減)
[利用者工賃総支給額]	6,758,031 円
[平均工賃]	7,129 円/月
[収入]	9,537,851 円
[支出]	9,537,851 円

(3) 特記事項

①運営

- ・「かがやきハイム」が仲宿ハイムのユニットとして 4 月に開設した。入居 (5 名) に体験型 (1 名) を備えたグループホームで、自立生活の体験や緊急時の一旦の受け入れ先となった。
- ・建物の老朽化に加えて、成人厨房に対する保健所からの指摘や児童ホームの漏水と床下の水溜まり、成人棟のエレベータの取替や屋上の防水等問題があり、板橋区として大規模修繕を行う判断がされた。今後、板橋区と法人・福祉園間で協議をしていく。
- ・ものづくりプロジェクトの中で自主生産品について協議を重ねてきた結果、新たな手ぬぐいを作成することに決めた。図柄の検討も重ねて決定した。
- ・5 名の職員が産休・育休を取得した。一時的に代替職員を補充できない期間があったが、それぞれの係において情報共有の方法や支援の中身の見直しや工夫等により乗り越えることができた。
- ・4 名の主任で対話会を実施し、中堅層の育成に取り組んだ。

②就労継続支援 B 型 (知的)

- ・4 月に 2 名、1 月に 1 名の新規入所者がいたが、自己都合 (生活介護への移行、住居近くへの移行等により 5 名) や就労 (1 名) により退所者 (計 6 名) が多く、利用者数が減となった。

- ・高齢化により、60才以上の利用者数名が、調整登園を希望し、登園日数及び登園時間が減少した。
- ・かがやきハイムに2名が入居した。
- ・地域交流会から縁を得た隣の倉庫会社から、倉庫へ出向いての作業の依頼があり、不定期ではなるが、新しい作業開拓につながった。

③就労継続支援B型（身体）

- ・書道クラブの講師が平成28年度末で辞められたが、4月より新しい講師が着任した。
- ・長期入院療養中であった女性利用者が、9月7日に他界した。（行年54歳）
- ・男性利用者（61歳）が10月27日に自宅で夕飯の支度中に誤って熱湯をかぶってしまい、そのまま入院した。11月13日に退院するも11月17日まで自宅療養となった。
- ・かがやきハイムに2名が入居した。

④生活介護

- ・12月21日、板橋区立高島平温水プールより板橋区へ加賀福祉園の支援に対しての虐待通報があった。プール同行職員に聞き取りをし、支援を検証した。結果として、興奮気味の利用者に対する周囲への安全配慮、利用者の好むプール内での遊び、咽込みの見られた利用者への対応があり、普段から行われているプール活動と大きく変わることは無かった。このことを板橋区へ施設長から報告するとともに、高島平温水プールを訪問のうえ報告して理解を得た。この件から、支援員たちの間では当たり前の事でも、第三者から見ると奇異に見える場面が存在することを常に認識しておかねばならないこと、現在の様々な支援場面について一度立ち止まり、見直し、共有し、再度構築していく必要があることを職員間で話し合い共有した。
- ・職員体制が大きく変わり、情報の共有が課題となった。また、利用者の障がい特性を踏まえ、プログラムのあり方も課題となり、今年度整理をした。

9-2 加賀福祉園（児童発達支援センター）

(1) 事業運営状況

[定員]	30名
[延べ利用人数]	4,711人（前年比68人減）
[平均利用人数]	19.9人／日
[収入]	64,687千円（前年比977千円増）

事業名	定員	人数	手帳取得状況										開所 日数	延べ利 用者数	平均利 用者数
			無	身体					療育（愛の手帳）						
				1	2	3	4	5	1	2	3	4			
加賀福祉園 (児童発達支援センター)	30	30	7	2	0	1*	0	1*	0	6	6	8*	236	4,711	19.9

※ 身体、療育共取得児童が1名(*印)いるため手帳取得状況の合計は31名

[入園] 4月入園9名、年度途中入園4名 計13名

[退園] 年度途中退園1名 30年3月卒園8名（就学8名） 計9名

[年齢別]

事業所名		0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
加賀福祉園 (児童発達支援センター)	男児	0	0	3	5	10	8	26
	女児	0	0	1	2	1	0	4
	計	0	0	4	7	11	8	30

[ぶどう・めろん・電話相談・発達検査]

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ぶどう (定員 15)	受入	7	3	2	0	1	2	1	0	0	2	0	0	18
	辞退	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	15	18
めろん (定員 20)	受入	14	5	1	2	0	0	0	0	0	1	1	0	24
	辞退	2	0	0	1	0	0	1	0	1	0	0	7	12
電話相談		18	17	12	7	11	12	7	17	6	15	12	10	144
発達検査		4	4	7	10	8	4	4	10	8	7	5	6	77

(2) 特記事項

- ① りす組への水漏れについては職員室空調からの排水が原因として特定できたため、排水管工事を行ない解決した。また、床下に水がたまっていることが判明したため、合わせて工事を行なった。
- ② 昨年度に引き続き、利用希望家族の増加が著しく、特にめろんグループは待機数が30人を超えている。
- ③ 家庭における適切な養育が困難な家庭（2件）については、昨年度に引き続き、児童相談所、子ども家庭支援センター、保育園等と連絡・調整を行った。内1件については29年度に入ってからほぼ毎日登園するようになり、保護者の方も子供と過ごす時間を大切にするようになってきたことが感じられた。

9-3 加賀福祉園（相談支援事業）

(1) 事業運営状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規	6	4	4	6	4	6	5	4	4	1	1	5	50
継続	6	3	10	11	8	10	6	1	7	13	17	13	105
モニタリング	6	6	2	2	7	5	2	10	6	0	10	6	62
変更	2	3	4	1	0	0	2	0	0	0	3	0	15
計	20	16	20	20	19	21	15	15	17	14	31	24	232
解約	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	4	5	11

契約総数：158名

変更：モニタリングや更新時期以外で日数変更や利用先の増減等により、変更のモニタリング、計画書書換えを実施。

解約数：11名（転居、児童発達支援終了、相談支援事業所変更に伴い）

(2) 特記事項

- ① 相談支援事業を開始して3年になり、モニタリング、更新、変更の総数は昨年度より5件増加（H28年度実施は、227件）。昨年同様、3月は児童発達支援終了、新規利用、年度切り替えでの日数変更等が集中する為、モニタリング、計画作成数が多く、昨年同様対応は困難だった。
- ② 区外の児童発達支援事業所の利用は昨年引き続き多く、慢性的な区内待機児の多さに変わりはない。
- ③ 児童発達支援利用児が増加していることがうかがえる。新規の受け入れが難しく断ったケースもあり、更に事業所間や福祉事務所との連携を高めながら対応していく必要がある。相談事業所、又は、児童（未就学）受け入れ可能な相談員の増加がなければ、必要なケースに必要な支援が行き届かないのが現状（発達ネット、連絡会等の場で、そういった現状は伝えてきている）である。
- ④ 幼稚園、保育園、児童発達支援、放課後等デイサービス等、普段直接の支援が少ないことから、保護者が利用先に言いにくい悩みや相談を受けることも増えた。

10. 仲宿ハイム

(1) 事業運営状況

[定員] 7名
 [延べ利用人数] 2,431人（前年比329人増）
 [平均利用人数] 6.6人/日
 [収入] 19,459千円（前年比109千円増）

事業名	定員	人数	区分						開所日数	述べ利用人数	平均利用者数	前年比収入（千円）	
			無	1	2	3	4	5					6
仲宿ハイム （共同生活援助）	7	7	0	0	0	4	2	0	1	365	2,431	6.6	109

新規2名、退所0名

[年齢別]

事業所名	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
仲宿ハイム	1	0	0	2	1	0	0	男4
（共同生活援助）	0	0	1	0	2	0	0	女3

11. かがやきハイム（仲宿ハイムユニット）

(1) 事業運営状況

体験型

[定員]	5名	1名
[延べ利用人数]	1,327人（前年比0人増）	137人（前年比0人増）
[平均利用人数]	3.6人／日	0.3人／日
[収入]	15,021千円（前年比－）	1,508千円（前年比－）

事業名	定員	人数	区分							開所 日数	述べ利 用人数	平均利 用者数	前年比収 入（千 円）
			無	1	2	3	4	5	6				
かがやきハイム （共同生活援助）	5	5	0	0	0	2	2	0	1	365	1,327	3.6	－
体験利用	1		1	1	1	3	1	1	1	365	137	0.3	－

新規5名、退所0名

[年齢別]

事業所名	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
かがやきハイム （共同生活援助）	0	2	1	1	1	0	0	男5
体験利用	0	3	3	2	0	1	0	男9

(2) 特記事項

- ・平成29年4月より仲宿ハイムユニット（かがやきハイム）開設

12. 大田福祉作業所

(1) 事業運営状況

[定員]	90名
[延べ利用人数]	17,829人（前年比38人増）
[平均利用人数]	73.06人／日
[収入]	174,132,766円（前年比1,905,427円増）

事業名	定員	人数	区分							開所 日数	述べ利 用人数	平均利 用者数	前年比収 入（千 円）
			無	1	2	3	4	5	6				
大田福祉作業所 （就労継続B）	90	79	37	0	4	17	16	5	0	244	17829	73.06	+1,905

新規2名、退所2名

[年齢別]

事業所名	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
大田福祉作業所 (就労継続 B)	男 2 女 0	男 10 女 5	男 12 女 3	男 12 女 10	男 1 女 7	男 6 女 7	男 2 女 2	男 45 女 34

(2) 生産活動状況

[売上]	17,751,733 円 (前年比 854,284 円増)
[利用者工賃総支給額]	16,436,790 円
[平均工賃]	17,121 円/月 (賞与含む) (前年度比 597 円/月増)

(3) 特記事項

・利用者の高齢化・重度化が広がり、多用なニーズへの対応が求められている中で、今必要な支援は何なのか、今すべき事は何なのかを考え・実行してきた一年であった。

なかなか自分の思いを伝えることが出来ない 64 歳の A さん。同居する妹家族の限界から都外施設への入所がご家族・CW 中心で進められていました。話し合いを重ねる中で、福作に通い続けたい本人の思いを引き出し、ご家族に伝える中で、9 月開所の GH かんらんしゃへの入居を内定し、それまでご家族が頑張ると覚悟を決め踏ん張ってくれていた中で、夜中に家を飛び出し交通事故で亡くなりました。我々がもっと出来る事は無かったのか、足らなかった事は無かったのか。家庭訪問や通勤支援・本人との関わり・・・本当に濃い一年でしたが、これからの福作の支援に大きな学びを与えてくれました。

・指定管理委託料が年々削減の現状だが (前年度比 28 年度 1,000 万減 29 年度 1,585 万減)、話し合い・要望の積み重ねで 30 年度は前年度比 1,224 万増とする事が出来た。

利用者確保と合わせ、区への要望・協議は継続的に行っていく必要がある。

13. 大田地域生活相談室

(1) 事業運営状況

[年度末契約者数]	82 名
[計画作成数]	66 件
[モニタリング作成数]	118 件
[収入]	2,894,021 円

[月別]

月別	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
計画作成数	6	7	3	10	4	6	3	11	5	5	6	66
モニタリン作成数	12	16	10	6	12	15	15	9	8	7	8	118

(3) 特記事項

- ・地域に根差した相談機関を目指し、5月に大田福祉作業所内に開設。大田福祉作業所利用者を中心に相談支援を行った。日中活動の様子や支援員からの情報・相談・連携がダイレクトに出来る事から、緊急時含め非常に瞬発力のある相談機関として機能する事が出来た。
- ・契約者は82名。
- ・29年度の新規契約者は5名。契約解除者は2名（死亡・一般就労）となった。

14. グループホーム かんらんしゃ

(1) 事業運営状況

[定員]	5名（男性）
[延べ利用人数]	993人
[平均利用人数]	4.7人/日
[収入]	13,046千円

事業名	定員	人数	区分							開所 日数	述べ利 用人数	平均利 用者数	前年比収 入（千 円）
			無	1	2	3	4	5	6				
かんらんしゃ (共同生活援助)	5	5	0	0	0	2	3	0	0	211	17,791	73.2	—

新規5名、退所0名

[年齢別]

事業所名	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
かんらんしゃ (共同生活援助)	0	0	男1	男3	0	男1	0	男5
	0	0	0	0	0	0	0	女0

(2) 特記事項

- ・大田地域待望のグループホームを29年9月に開所する事が出来た。ここまで、多くの利用者が、本人の望まない都外施設に行かざるを得ない状況に甘んじてきた。支援者としての悔しさを積み重ねてきた中での開設となった。大田福祉作業所利用者5名のスタートとなり、大田福祉作業所職員がバックアップとして勤務する事で、お互い慣れた仲間・支援者と言う事もあり非常にスムーズにそして利用者にとって安心できる自分の場所となってきている。
- 支援者が生活支援を経験する・担う事で、彼らの生活や人生・生き難さを、真摯に考えるきっかけにもなっている。

15. 日の出福祉園

(1) 事業運営状況

[定員]	123名
[延べ利用人数]	35,442人(前年比448人減)
[平均利用人数]	106人/日
[収入]	919,511千円(前年比8,495千円減)

事業名	定員	人数	区分						開所 日数	述べ利 用人数	平均利 用者数	収入 (千円)	
			無	1	2	3	4	5					6
日の出福祉園 (施設入所支援)	80	78	0	0	0	0	0	0	78	365	28,028	76.7	▲1,260
日の出福祉園 (生活介護)	33	32	0	0	0	0	1	3	28	245	6,501	26.5	▲3,222
日の出福祉園 (短期入所)	5									365	628	1.7	▲3,732
日の出福祉園 (日中一時支援)	5									245	285	1.1	▲281

新規6名(入所5名、通所1名)、退所7名(入所4名、通所3名)

[年齢別]

事業所名	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
日の出福祉園 (施設入所支援)	0	2	7	8	13	12	4	男 46
	0	0	2	8	10	6	6	女 32
日の出福祉園 (生活介護)	0	14	1	1	0	1	0	男 17
	1	8	4	0	1	1	0	女 15

(2) 特記事項

利用者の方たちが、その人らしく安心して暮らすことを実現するための支援を行った。7名の方が退所され、内4名の方が逝去、3名の方が地域移行となった。事故等については、5名の骨折事故、約900件のアクシデント報告があった。利用者の方たちへの支援において、安心・安全が重要であると強く感じた一年であった。

私たち支援者は、「人の命」を預かる仕事をしている。利用者の方たちから、信頼される支援しなければならない。次年度の事業の目標を「信頼」、「安心・安全」とし、利用者の方たちから信頼される存在であり、地域においてその人らしく安心して暮らすことができる支援を、職員一人ひとりが意識し、実践をしなければならない。

16. 西多摩地域生活相談室

(1) 事業運営状況

[年度末契約者数]	5名（前年比 4名増）
[計画作成数]	4件（前年比 4件増）
[モニタリング作成数]	8件（前年比 7件増）
[収入]	179千円（前年比 160千円減）

	計画作成数	モニタリング作成数	収入 (千円)	前年比収入 (千円)
青梅市	1	4	72,620	+72
練馬区	0	2	27,772	+10
あきる野市	2	1	48,038	+48
相模原市	1	1	30,962	+30

(2) 特記事項

昨年度からの継続3件と新規の1件を担当した。これまで相談支援専門員は日の出福祉園の支援員との兼務であることで、相談事業所としての機能を果たすことができていなかったが、今年度は支援員ではなく地域調整担当との兼務になったことで、契約者への計画相談は実施することができた。西多摩地域において法人内事業所であるグループホームと生活介護事業所が設置されたことで、西多摩地域における相談事業所として、事業所を利用されている方たち、地域の障害者の方たちへの相談支援をおこなわなければならない、と昨年度からの引継ぎにあったが、法人内事業所においてはこれまで相談事業所を利用していなかった方も、西多摩地域生活相談室ではなく新規で別法人の相談事業所と契約している。また、地域の障害者の方たちから問い合わせは何件かあったが、計画作成には至っていない。

17. 生活介護ほ～ぷ

(1) 事業運営状況

[定員]	20名
[延べ利用人数]	3,826人（前年比・・・）
[平均利用人数]	16.3人／日
[収入]	61,479千円（前年比・・・）

月別利用状況

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
稼働日数	23	22	21	23	21	21	22	21	19	20	22	235
延べ利用回数	340	354	343	338	339	337	345	333	331	372	394	3,826
平均利用者数	14.8	16.1	16.3	14.7	16.1	16.0	15.7	15.9	17.4	18.6	17.9	16.3

(2) 利用者の状況

利用者の状況

利用者の状況（区分別）					
	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男	0	1	4	4	9
女	0	1	1	9	11

利用者の状況（年代別）								
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
男	1	4	0	0	2	2	0	9
女	0	6	0	2	2	0	1	11

(3) 生産活動状況

[売上]	280,398 円（前年比・・・）
[利用者工賃総支給額]	280,377 円（年2回支給・下半期分は平成30年5月支給予定）
[平均工賃]	7,378 円／年

月別作業収入												
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
加藤紙器物流	1,650	13,344	4,608	18,154	12,446	3,600	2,614	12,428	10,464	4,464	3,595	87,367
サンメディカルサービス	7,301	21,190	21,676	14,413	16,590	17,850	16,350	21,600	15,420	18,780	20,500	191,670
藤谷産業									331		830	1,161
自主製品等										200		200
月合計	8,951	34,534	26,284	32,567	29,036	21,450	18,964	34,028	26,215	23,444	24,925	280,398

(4) 特記事項

- ・平成29年5月1日 開所式を開催する。利用者数16名のスタートとなる。
- ・5月 ほ～ぷ利用者自治会発足。初代会長は西谷大輝氏。
- ・5月 利用者総数16名
- ・6月 新規利用者2名（女性）の受け入れ 利用者総数18名
- ・6月 実践研究会発足、以降8回開催
- ・7月 新規利用者1名（男性）の受け入れ 利用者総数19名
- ・8月 1名退所（女性） 利用者総数18名
- ・9月 初工賃の支払い
- ・10月 一泊旅行第一班実施。以降4回実施。
- ・平成30年1月 新規利用者男性1名、女性1名受け入れ 利用者総数20名
このうち、KYさんについては、ひゅーまん地域生活相談室と連携し、利用開始につなげた。
- ・2月 自主生産品のガラス細工がはじめて売れる。
- ・3月 男性利用者1名契約解除（末日） 利用者総数19名

(その他)

- ・青梅市施設協議会に継続参加
- ・あきる野市自立支援協議会に参加
- ・高校2年生を中心に、あきる野学園、青峰学園、地域親の会等の依頼を受け、体験実習及び見学の受け入れを行う。
- ・ほ〜ぷ通信発行（今年度は2回）
- ・スポーツ大会・施設紹介等、あきる野市主催の地域行事に積極的に参加した。

18. プロシード

(1) 事業運営状況

[定員]	20名
[延べ利用人数]	5,470人（前年比742人減）
[平均利用人数]	17.6人/日
[収入]	60,230千円（前年比14,484千円減）

事業名	定員	人数	区分							開所 日数	述べ利 用人数	平均利 用者数	前年比収 入（千 円）
			無	1	2	3	4	5	6				
プロシード （就労継続支援A）	10	12	12	0	0	0	0	0	0	364	3,204	8.8	-587
プロシード （生活介護）	10	10	0	0	1	0	2	1	6	257	2,266	8.8	-13,897

新規5名、退所8名

[年齢別]

事業所名	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
プロシード （就労継続支 援A）	1	2	1	2	0	0	0	男 6
	0	1	2	2	1	0	0	女 6
プロシード （生活介護）	1	1	0	3	1	1	0	男 7
	0	0	0	3	0	0	0	女 3

(2) 生産活動状況（就労継続支援A型のみ）

[売上]	20,477,228円（前年比2,307,564円増）
[利用者工賃総支給額]	15,301,152円
[平均工賃]	106,258円/月（賞与含む）
[収入]	20,477,228円
[支出]	19,476,882円

(3) 特記事項

○ 就労継続支援A型は4月に新卒の従業員（利用者）1名が僅か2ヶ月で契約終了となった事や9月に企業就労による契約終了者1名が出たが、大幅な収入減とはならず前年比でもほぼ横ばいの水準となった。しかし、既に徐々に影響が出始めているが、現在国が推し進めている障害者雇用が今後益々進んでいけば、A型事業は特にその影響を受けることは必至であり、その影響で事業活動収益は勿論の事、生産活動における生産性の低下など事業存続に関わる影響が出る事が危惧されている。

生活介護は、5月に法人内生活介護事業所が近隣に新規開所した事により、既存利用者の半数以上が新規事業所へ移行した事で、以降、事業開始以来の初の定員割れ状態となり、年度当初時点では収益上赤字に陥る危険性もあったが、その後少しずつではあるが新規利用者が増えていった事で、年度末までにはどうにか定員割れも解消され、最終的にはどうにか繰入金計上できるまでに収支は回復した。ただし、いくら昨年度までが定員超過減算ギリギリの利用率であったとは言え、概算で自立支援給付費ベース2千万円分相当の利用者減となったことは、決して結果オーライとは言えないものである。他方で、開所以来殆ど入れ替わる事が無かった利用者構成が大きく入れ変わった事により、事業計画で掲げていた「働く生活介護」としての機能が大きく前進し、年度末時点で障害支援区分5以上の利用者が7割（区分6でも6割）にも及ぶ利用者構成の中でも、月額換算で3,000円以上の作業工賃相当額を支給できる程の売上を出せた事は、利用者にとっては勿論の事、事業所にとっても喜ばしい事だったと言える。

19. 秋川ハイム事業所（秋川ハイムユニット）

(1) 事業運営状況

[定員] 12名
 [延べ利用人数] 4,050人（前年比1,219人減）
 [平均利用人数] 11.1人/日
 [収入] 52,775千円（前年比13,388千円減）

事業名	定員	人数	区分							開所 日数	述べ利 用人数	平均利 用者数	前年比収入 (千円)
			無	1	2	3	4	5	6				
秋川ハイム (共同生活援助)	12	11	0	0	1	0	2	2	6	365	4,050	11.1	▲13,388

新規8名、退所1名

[年齢別]

事業所名	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
秋川ハイム	0	0	1	3	1	1	0	男6
(共同生活援助)	0	4	0	1	1	0	0	女6

(2) 特記事項

- ・平成 29 年 4 月より定員を 15 名から 12 名に変更した。
- ・11 月に契約解除者 1 名。
- ・2 月に契約者 1 名。

20. 秋川ハイム事業所（アイムホームユニット）

(1) 事業運営状況

[定員]	12 名
[延べ利用人数]	4,123 人（前年比 ー）
[平均利用人数]	11.3 人／日
[収入]	57,939 千円（前年比 ー）

事業名	定員	人数	区分							開所 日数	述べ利 用人数	平均利 用者数	前年比収 入（千 円）
			無	1	2	3	4	5	6				
アイムホーム （共同生活援助）	12	11	0	0	0	0	1	4	6	365	4,123	11.3	ー

新規 3 名、退所 1 名

[年齢別]

事業所名	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	合計
アイムホーム （共同生活援助）	0	2	0	1	2	1	0	男 6
	0	0	0	2	2	1	0	女 5

(2) 特記事項

- ・平成 29 年 4 月よりアイムホームユニットがスタートした。
- ・11 月に契約解除者 1 名。

VII. 川崎事業本部

1. 川崎市中央療育センター（通所部門）

(1) 事業の概要

- 児童発達支援センター 定員 50 名
- 医療型児童発達支援センター 定員 50 名
- 児童発達支援事業 定員 10 名
- 放課後等デイサービス 定員 15 名（うち 5 名は重症心身障害児対応）
- エミール（児童発達支援事業） 定員 10 名
- 障害児相談支援・計画相談支援

○診療所

発達相談に関わる診療

(小児科・小児神経科・児童精神科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科)

訓練・検査(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・心理士、ほか)、摂食外来

○地域支援 ソーシャルワーカーによる相談、訪問、巡回等

○対象地域：川崎市中原区・高津区

(2) 相談

・相談利用者数：3,384人(前年+343人) ・新規相談児童数：519人(-92人)

・計画相談契約数：442人(内、新規158人)

・計画作成数：645件

・モニタリング数：438件

(3) 診療所

(年間延べ件数)

小児科	小児神経科	リハビリテーション科	耳鼻咽喉科	児童精神科
9,221	1,124	1,346	104	1,059

外来訓練等

(年間延べ件数)

PT 訓練	OT 訓練	ST 訓練	聴力検査	心理相談	心理検査
4,559	1,999	3,186	386	1,543	1,229

(4) 通園療育

年間開所日数 264 日 / 通園開所日数 225 日

(年間新契約者数・延利用人数)

	新契約者数	延利用人数
児童発達支援センター	213	13,464
医療型児童発達支援センター		
児童発達支援(短時間グループ)	126	1,578
療育センター合計	339	15,042
エミール	78	1,927

(6) 放課後等デイサービス

・年度末契約利用者数 65名 内訳：重心20名・知的45名

2. 川崎市中央療育センター（入所部門）

(1) 事業の概要

- 障害児入所施設 定員 50 名
- 障害者支援施設（経過的施設入所支援・経過的な生活介護）
（本事業は、当障害児入所施設の加齢児のみが対象）
- 短期入所・日中短期入所 定員 10 名
- 地域移行支援事業（委託事業）

(2) 運営状況

- 入所（平成 30 年 3 月 31 日現在） 43 名
児童 42 名 契約 4 人 措置 38 名
加齢児 1 名 契約 1 名
*平成 30 年 4 月 1 日現在の在籍 48 名（4 月新入所 5 名）
- 短期入所 年間合計利用人数 2,532 人
- 日中短期入所 年間合計利用人数 212 人
- 緊急一時保護委託 年間合計利用日数 231 日(17 件)

(3) 特記事項

- 一昨年の死亡事故の第三者委員会の最終報告書を川崎市に提出。
- 事例検討（ケーススタディ）の重要性を認識し、スーパーバイザーを迎えて研修を行った。（部長・主任職員の位置づけ）
- 思春期の児童の間で性的逸脱行動や対人関係のトラブルなどの課題が生じた。児童相談所や保健師の協力を得て、性に関する職員研修及び児童の指導を行った。
- 児童の活動の幅を広げるために、学校の部活動（陸上部、吹奏楽部、サッカー部、バドミントン部など）に積極的に参加した。

3. 地域生活支援センター

(1) 事業の概要

- 生活介護事業「いろは」（定員 20 名 現員 24 名）
4 月に中原区上小田中に移転。現状に即し、使いやすく、利用者にとっても職員にとっても働きやすさと親しみが持てる設計を心がけた新築物件である。活動は軽作業を中心とし、社会とのつながりを大切にするとともに充実した時間を過ごせるような配慮をしている。
また、川崎市中央療育センターの清掃作業の業務委託を行い、作業種目に追加した。当初は、利用者・職員ともに慣れない活動で苦労を重ねたが、今ではその作業を励みに頑張ろうという利用者も多くなって来ている。

- 指定共同生活援助事業所「ウィズバル」(18名定員 現員 17名)

旧しいのき学園で加齢児として暮らしていた方、児童養護施設で暮らしていた方、ご自宅から生活の場を移された方など、それぞれ事情は異なるが、地域の中での暮らしを実現している。

暮らし方の質についてはまだまだ検討が必要であるが、利用者それぞれが地域での暮らしに慣れ、充実した暮らしを実現しつつある。

(2) 運営状況

- 生活介護事業「いろは」

定員 20名 (現員 24名)

開所日数 237日

利用率 97.2%

行事等 暑気払い、一泊旅行、忘年会、成人式、その他

- 指定共同生活援助事業所「ウィズバル」

GH「ウィズバル(男性利用者対象)」(定員 6名 現員 6名)

GH「ディアバル(男性利用者対象)」(定員 6名 現員 5名)

GH「めりあ(女性利用者対象)」(定員 6名 現員 6名)

(3) 特記事項

- 横領事件

元管理者による利用者預り金の私的流用(横領)が発覚する

被害者数 14名(利用者 18名中)

被害額 9,855,382円

刑事告発 神奈川県警高津警察署に刑事告発(現在捜査中)

第三者委員会 第三者委員会による内部調査

(川崎市に提出およびホームページにて公開)

委員長 佐藤彰一氏(弁護士)

委員長代理 中山満氏(社会福祉法人関連識者)

委員 大塚晃氏(学識経験者)

飯塚賢司氏(公認会計士)

川崎市処分 事業所の効力全停止3か月(平成30年4月1日~6月30日)

- NPO 法人川崎市障害福祉施設事業協会第三者委員会による訪問調査

横領事件を契機に、「いろは」「ウィズバル」の支援のありかたを客観的に評価してもらうために、視察及び訪問評価を依頼した。

- 事業指定停止期間中の支援体制の構築

行政より、停止期間中の継続的な「ウィズバル」の運営を指示されたが、事業の見直しを含めた検討のために横浜事業本部「てらん広場」での短期入所の利用を計画した。

4. 相談支援センター

(1) 事業の概要

- 地域相談支援センター「にじ」 相談支援専門員 2名 相談員(非常勤)1名
(中原区地域相談支援センター地域型)
 - ・ 一般相談
 - ・ 指定特定相談支援事業所 (計画相談)
 - ・ 指定一般相談支援事業所 (地域移行支援)
 - ・ 障害児相談支援

- 相談支援事業所「いろは」 相談支援専門員 1名 兼務 1名
 - ・ 計画相談支援
 - ・ 障害児相談支援

(2) 地域相談支援センター「にじ」

- ・ 年度実績：登録者数 119名 新規 22名 終了 8件

(3) 相談支援事業所「いろは」

- ・ 年度実績：契約者数 91名 新規 1名 終了 1名

5. 北部地域療育センター

(1) 事業の概要

- 児童発達支援センター 定員 50名
- 医療型児童発達支援センター 定員 10名
- 児童発達支援事業 定員 10名
- 障害児相談支援・計画相談支援
- 診療所
発達相談にかかる診療
(小児科・小児神経科・児童精神科・耳鼻咽喉科・リハビリテーション科)
訓練・検査 (理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・心理士ほか) 摂食外来
- 地域支援 ケースワーカーによる相談、訪問、巡回等
- 対象地域：川崎市麻生区・多摩区の一部

(2) 地域支援

- ・ 相談利用者数：2311人(+292) 新規相談数：355人 (+36)
相談終了：117件 (+71)
 - ・ 新規計画相談契約数：120件 計画作成数：376件 モニタリング数：325件
- センター行事として今まで単独で行っていた「ほくほくまつり」を地域交流としても位置

付け、近接の福祉施設が実施する「片平なかよしフェスタ」と同日開催し、センター利用者・関係者、地域住民の参加で実施した。また、昨年から実施してきた「ボランティア感謝 Day」において、ボランティアや職員の家族を交えた現代人形劇センター：デフ・パペット・シアター・ひとみによるワークショップを開催した。

(3) 診療所

(述べ件数)

小児科	小児神経科	リハビリテーション科	耳鼻咽喉科	児童精神科
5,252	113	221	46	158

(4) 外来訓練等

(述べ件数)

PT 訓練	OT 訓練	ST 訓練	聴力検査	心理相談	心理検査
2,366	1,058	1,274	209	1,280	617

(5) 通園療育・グループ療育

年間開所日数 266 日／通園開所日数 229 日

(年間新契約者数・延利用人数)

	新契約者数	年間延人数
児童発達支援センター	148	8,126
医療型児童発達支援センター	8	257
児童発達支（短時間グループ）	76	1,048
療育センター合計	232	9,431

以上